

授業科目名	リハビリテーション科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み、場所は研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業を行います。授業日程に従って、講義形式で実施します。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させます。学生は授業に出席し、課題を作成・提出することが義務付けられます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リハビリテーション医学、医学統計、EBM		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	リハビリテーション医学で問題となる様々な病態を理解し、その効果的な治療法を科学的に検討するために必要な基礎的知識の習得が講義の目標です。また、関連する分野の最新の知見についても学習します。		
授業の内容	最初にリハビリテーション医学に必要な統計の基礎を学習します。次に、これがどのようにリハビリテーション医学に応用され、その病理・病態を明らかにし、効果的な治療方法の解明に結びついているかを学習します。具体的には、配布資料や参考図書および文献を用い、現在解明されている事項の理解を深め、問題点を明らかにすることを目的とします。		
成績評価の方法	成績評価は、課題レポート80%、出席および出席態度20%の割合で評価します。レポートの課題および提出期限は別途指示します。3日にわたる集中講義ですが、1日でも欠席すると評価はC以下となります。		
テキスト	資料、参考文献を随時配布します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	コミュニケーション特論		
担当教員氏名(助手氏名)	吐師 道子 吉川ひろみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3513研究室(吐師), 3404研究室(吉川)		
オフィスアワー	あらかじめアポイントを取った日時とする		
授業の形式・方式	seminar		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	presentation skills		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>The purpose of this class is to develop skills necessary for effective presentation of research in English. The class will take students through slide preparation to oral presentation in English via step-by-step instructions and practices. Each student is expected to be able to present his/her research or research plan at the end of the course. This class will be excellent for those who are interested in/planning to present their research in international conferences.</p> <p>(英語でのプレゼンテーションスキルを身につけるコースです。スライド作成から発表まで段階を追っての演習を行い、最終的には各学生は自身の研究又は研究計画の英語プレゼンテーションを行います。国際学会での発表に興味がある、又は予定している学生に最適のコースです。)</p>		
授業の内容	<p>In the first half of the course, students will choose an English research article and present the content. Class time will be spent preparing effective and eye-friendly slides, developing manuscripts that are audience-friendly, and working on pronunciation, speech rate, pause and intonation. The second half of the course involves each student presenting his/her own research or research plan, following the same step. Several lectures by visiting lecturers on topics relating to presentation will be also scheduled.</p> <p>(コースの前半では英語論文を読み、その内容をPPTにまとめ発表します。見やすく効果的なスライド及び聞きやすい発表原稿の作成、発音、ポーズ、イントネーションなどへの練習を中心に授業を進めます。コース後半は前半と同じ段階を使い、各学生の研究又は研究計画の英語プレゼンテーションを目標とします。プレゼンテーションに関するトピックについての外部講師の講義も予定しております。)</p>		
成績評価の方法	<p>Grades are based on presentation and class participation.</p> <p>(成績はプレゼンテーションの完成度と授業への参加度に基づきます。)</p>		
テキスト	<p>Materials will be provided in the class</p> <p>(資料は授業中に配布します)</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>This course will be conducted only in English. The use of Japanese in class is limited to supplementing information that can not be fully transferred in English at any particular time. Also, students are expected to speak up: silence is counter-productive and is strongly discouraged.</p> <p>(この授業は英語のみで行います。授業中の日本語使用は英語によって伝達ができなかった情報を補足することにとどめます。学生には発言することが求められます。沈黙は生産的ではなく、許されません。)</p>		

授業科目名	保健医療福祉研究法 I (保健・看護)		
担当教員氏名(助手氏名)	岡光 京子, 笠置恵子		
研究室の場所	三原キャンパス 3512研究室 (岡光) , 3422研究室(笠置)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	履修予定者のニーズによっては集中講義を行う場合もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	看護研究、研究のプロセス、看護研究における倫理的配慮、研究方法論、量的研究デザイン、質的研究デザイン		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	保健・看護領域での研究の意義を考え、研究を行うにあたり、研究目的の設定、概念や枠組みの明確化、研究方法の選択、対象に対する倫理的問題などについて考え、研究方法の展開と進め方について学習する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義 2. 看護研究のプロセス 3. 文献検索 4. 研究デザイン 5. 研究計画書 6. データの分析 7. 研究における倫理的配慮 8～15. 研究方法論 		
成績評価の方法	出席状況 (10%)、グループワーク参加度 (20%)、課題レポート (70%) など		
テキスト	近藤潤子監訳『D.F.Polit 看護研究 原理と方法』 (医学書院)		
参考文献	小玉香津子訳『Pamela J. Brink 看護研究計画書 作成の基本ステップ』 片田範子訳『Sara T. Fry 看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、主体的に学習して授業に臨むこと。		

授業科目名	保健医療福祉研究法Ⅱ（リハビリテーション）		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室（4号館4階）		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。 		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を基本とするが、受講者全員の同意がある場合は三原キャンパスからの遠隔授業、夜間・土曜日開講やその他の形態にも対応する。 ・必要に応じて講義も行うが、保健医療福祉分野（特にリハビリテーション分野）に関連した文献の輪読等も含め、当該分野に関するテーマについて調査研究を行い、その結果をレポートとしてまとめ、報告を行う演習形式を主体とする。 		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	保健, 医療, 福祉, リハビリテーション, 研究の進め方, 研究方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は主として総合リハビリテーション分野の受講者を対象とした共通科目である。 ・受講者は「保健医療福祉分野における研究の進め方と研究方法の修得」を目標とする。 ・保健医療福祉に関する分野の研究では多様な研究対象と研究手法が考えられるが、受講者はこの点を鑑みて、リハビリテーション分野での研究の基本的な進め方と主要な研究方法について把握し、幅広い研究情報の理解を図ることを目指す。 		
授業の内容	医療分野での研究の進め方と研究方法について把握し、研究課題を遂行するために必要となる研究計画の立て方、情報・文献検索の方法、実験や観察に基づく研究の進め方や手段の確立、データの整理やまとめ方とその評価方法、レポートの書き方や明瞭な文章および図表による表現方法などについて学習する。		
成績評価の方法	授業参加（出席状況と授業への取り組み態度）とレポート内容による総合評価を行う。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（教科書）は特に指定しない。 ・必要に応じて資料を配布する。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の他、授業の進行に応じて適宜紹介する。 ・高橋秀明, 柳沼良知『研究のためのICT活用』放送大学教育振興会（NHK出版）, 2013年 ・井上洋士『ヘルスリサーチの方法論』放送大学教育振興会（NHK出版）, 2013年 		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉分野, 特にリハビリテーション分野における研究の進め方と研究方法を把握する上で、保健医療福祉研究法Ⅱ（リハビリテーション）は重要な科目です。 ・予習・復習も非常に大切ですが、授業中に疑問を生じた場合はそのままにせず、なるべくその場で解決するようにしてください。 ・また演習形式の授業は通常の受け身の講義とは異なり、能動的に手足と頭脳を働かせ、積極的に授業に参加する態度が必要となります。 		

授業科目名	保健医療福祉研究法Ⅲ（ヒューマンサービス）		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス 4529研究室		
オフィスアワー	メール等で事前にご連絡ください		
授業の形式・方式	対面・遠隔		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ヒューマンサービス研究方法、量的、質的測定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでのヒューマンサービス分野の理論や技法を批判的に吟味し、これからのヒューマンサービス分野に適応する新たな実践モデルを構築するための研究法について学ぶ。		
授業の内容	従来のヒューマンサービス分野で開発されてきた様々な援助モデルを批判的に吟味し、マイクロレベルの対人関係の変容から家族や地域社会の力動性の変容というマイクロレベルの変容を説明できる実践モデルの研究法について、理解を深める。これらの学習を通じて、ヒューマンサービス分野での研究法に関する基礎知識の習得をめざす。		
成績評価の方法	筆記試験100%		
テキスト	『ヒューマンサービス調査法を学ぶ人のために』、世界思想社、2008 『ファミリーソーシャルワークの理論と技法』第2部、2014		
参考文献	『支援論の現在—保健福祉領域の視座から』世界思想社、2008年、『サポート・ネットワークの臨床論』世界思想社、2010年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	医療福祉倫理学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	大森 彰人 [非常勤講師] , 吉川 ひろみ		
研究室の場所	大森 (鈴峯女子短期大学言語文化情報学科) , 吉川 (三原キャンパス3404研究室)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業計画に基づき、オムニバス方式により、人間・愛・幸福・価値等の倫理的基本問題の講義と自我・生命観・死生観・生老病死に関わる倫理的応用問題についての問題提起・発表・討議を行う。学生は積極的に授業に参加し、自ら進んで自らの課題を見つけ探求・研究し、さらに自発的に発表し討議することによって自らの倫理観・人生観を学習し形成していくことが望ましい。なお授業のテーマに即したビデオなど視聴覚教材も活用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己・人間・環境・自由・愛・幸福・福祉、生老病死・生命倫理・死生観、鬱病・自殺・安楽死、倫理ディレンマ、事例検討		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	われわれ人間は社会・自然など外的世界においてただ生きるだけでなく、自己の深い内面において、意味と価値の世界・精神(心)的世界においても生きる存在である。さらに自己の内的世界におけるあり方が、自己の外的世界における存在様式を基礎付けるものである。倫理学は内的・外的世界における人間存在・自己自身のあり方を探求することを目的とする。人間の内的精神的世界が無視ないし軽視され、人々の中に不安・空虚・焦燥・孤独感・攻撃性など病的状況が蔓延している今日、倫理学の研究教授は、とくに保健福祉の分野において、いっそう重要であるといえる。本講義においては倫理的基礎知識を教授し、学生の倫理的思考力・内的自己探求力・自己実現能力を啓発育成し、さらには自己表現力・コミュニケーション能力・人間関係形成力の体得形成に資することを目的とする。		
授業の内容	(概要) 自然・人間・人生・生命・生死・価値、さらに徳・愛・幸福・福祉などの倫理学的基本問題を学習する。それに基づいて生・老・病・死および健康・障害に関する生命倫理的諸問題等を学習し、医療福祉における倫理観と職業倫理の育成に資することをめざす。 (オムニバス方式) (大森) 自然・人間・人生・生命・生死・価値、さらに徳・愛・幸福・福祉などの倫理学的基本問題を学習する。 (吉川) 保健福祉の分野に日常的に生じている倫理的ディレンマについて、事例を通して理解し、倫理的知識を用いて検討する。プレイバックシアターの手法を用いた演習を行う。		
成績評価の方法	課題発表 (20%) レポート (80%) により判定評価する。		
テキスト	河野 真監修・田路 慧編著『人間と生命—生命観と生命倫理の探求』(ふくろう出版刊) 1991参考書は講義において適宜紹介する。		
参考文献	砂屋敷忠ほか著『医療・保健専門職の倫理テキスト—悩める医療スタッフと学生のための事例集』(医療科学社) 2007年 吉川ひろみ著『保健・医療職のための生命倫理ワークブック』(三輪書店) 2008年		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は教科書を熟読するとともに、生老病死・自殺・脳死・臓器移植・人工授精・妊娠中絶・遺伝子治療・医療事故・介護問題・児童虐待・老人虐待など医療・福祉問題に関心を持ち、新聞や雑誌の関連記事を読み、自分の考えや意見をまとめておくことが望ましい。 吉川担当の後半の授業では、動きやすい服装で参加すること		

授業科目名	ソーシャルワーク特論		
担当教員氏名(助手氏名)	松宮 透高		
研究室の場所	三原キャンパス 2519研究室		
オフィスアワー	月曜日・金曜日 希望があれば面談するので、事前にメールもしくは電話で問い合わせること		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には受講者の報告とディスカッション、グループワークによる演習形式をとる。 ・情報を共有するために一部レクチャーを行う場合がある。 		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ソーシャルワーク 生活支援 対人援助専門職の連携		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本講の目的は、福祉、看護、リハビリテーション、医療など対人援助業務に携わる専門職に共通する「支援関係」および「生活支援」の意義について、ソーシャルワークの視点から再検討し、多面的な支援実践力を獲得することにある。 ・とくに、専門職間の連携やチームマネジメントのあり方について理解を深め、利用者支援に活用可能なスキルや視点を身につけることを目指す。 ・共通科目として開講する。専門領域を問わず、多様な受講生を歓迎する。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・共通する文献を輪読した上で、各自の意見を照らし合わせながら、ディスカッションを行う。文献は下記テキストのほか、受講者のニーズにより適宜提示する。 ・事例場面の検討を通して、支援スキルやソーシャルワークの視点について検討するプログラムをはじめ、ロールプレイやグループワークにも取り組む。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価試験に代えて課題レポートを課す ・講義への主体的参加姿勢を評価に加味する 		
テキスト	尾崎 新「『現場』の力 社会福祉実践における現場とは何か」誠信書房		
参考文献	適宜提示する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・集中講義であるため、出席確保のための日程調整に注意すること。 ・提示した課題に取り組むこと。 ・積極的な意見表明など、主体的な参加を期待する。 		

授業科目名	人体構造機能学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業を基本とするが、受講者数および受講者の興味と特性に応じて授業形式は考慮する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	細胞学、組織学、内臓学、局所解剖学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	専門支持科目の一つである。専門科目を履修する上で、関連する人体構造上の知識を整理し、理解深をめる。また、必要であれば修士論文作成上必要となる研究技術などの理解も援助する。		
授業の内容	人体を構成する細胞、組織、器官はその存在場所により特徴的な構造を持つが、それらの多様な形態学的特徴はその細胞、組織、器官が果たす機能と密接に関係している。種々の観察技術・解析技術で得られる形態学的特徴とその変化がどのように機能的変化と係わっているかを考える。なお、受講者の専攻分野により対象とする器官系は考慮して講義を行う。		
成績評価の方法	出席状況とレポート課題の提出状況を総合して判断する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	組織学・解剖学に関する一定の知識を持っていることを前提に授業を進める。		

授業科目名	人体生理化学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志		
研究室の場所	三原キャンパス 4428研究室		
オフィスアワー	随時、ただし事前連絡がある方が確実です。		
授業の形式・方式	対面授業を基本としますが、履修予定者数や希望・意向等を考慮して実施します。授業内容に応じた課題に対するレポートの作成、プレゼンテーションおよび討論を行うことがあります。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生理学, 生化学, 細胞, 内分泌, 呼吸, 循環, 神経・筋		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業科目では、人体の基本的生理化学機能を理解することを目標としています。本科目は専門支持科目の一つであり、身体機能や脳機能を扱う専門科目を高度に理解する上で重要な導入科目でもあります。これらの専門科目を履修する場合には、是非受講してほしいと考えます。		
授業の内容	履修予定者の専攻分野を加味しながら、生体の持つ生理化学機能の理解を深めます。人体の生理化学機能の発現はその解剖学的裏付けによってなされることが多いので、本科目履修予定者には授業項目に応じて解剖学的要素についても講義します。また授業時間内に簡単な実験を行うなど「見て分かる」生理機能の可視化を心掛けたいと考えています。		
成績評価の方法	課題に応じたレポート作成、プレゼンテーション内容、討論内容、授業時間終了後の口頭試験を通して、総合的に評価します。		
テキスト	適宜紹介します。		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	可能な限り履修予定者の希望を取り入れた授業時間割を作成します。 履修予定者は生体の基本的生理化学機能を理解し、本科目を履修することを希望します。		

授業科目名	疫学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置 恵子		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室		
オフィスアワー	特に指定しない		
授業の形式・方式	対面授業、履修予定者の状況にあわせた講義内容、時間設定を考慮する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	集団現象の把握、関連要因の分析、適切な保健対策、		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	保健学、疫学の歴史的発展過程をふまえ、疾病の予防、健康の保持増進の概念を理解し、保健医療分野における健康上の問題点を明らかにし、有効な対策を樹立するための基本的な疫学的方法論を学習する。		
授業の内容	疾病と疫学の歴史、疫学の基本的概念、健康問題へのアプローチ、人間集団の健康事象、疫学調査の倫理等について理解し、疫学調査法について学習する。必要に応じて課題演習を実施する。		
成績評価の方法	学期末の最終課題レポート及び毎回の授業に関連した課題提出を総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献	1) はじめて学ぶやさしい疫学(南江堂) 2) 最新保健学講座7 疫学保健統計(メヂカルフレンド社) 3) しっかり学ぶ基礎からの疫学(南山堂) 4) その他適宜文献などを使用する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修学生の状況により参考図書を選択紹介を適宜行うのでテキストの購入は初回講義後にすること。履修予定者は、主体的に学習して授業に臨むこと。		

授業科目名	がん治療学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小山 矩[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	悪性腫瘍、がん治療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	がん治療の意義と目的		
授業の内容	<p>年間死亡原因の約30%になる悪性新生物の治療について広範囲に学習する。 がんの主な治療法は、治療成績の向上を目指して、外科、化学療法、放射線治療があるが、講義ではこれらの手法と共に温熱療法、免疫療法なども加味したあらゆるがんの治療法を集約した手法の発展について学習する。また、治療成績を大きく左右するとされるがん治療中の患者に対する臨床的対応の方法についても、臨床例をテーマに置き学習をする。</p>		
成績評価の方法	レポートによる評価を用いる		
テキスト	テキストは使用しない。講義ごとにプリントを配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	終末期医療特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小山 矩[非常勤講師]		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	終末期医療、ホスピス、緩和ケア、がん		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	終末期医療の理解と緩和ケア、ホスピス、QOLなど終末期に要求される事柄の学習		
授業の内容	<p>終末期医療は、近年めまぐるしく変化してきている。人生において必ず迎える死を前提にする終末期とはなにかを、時代と共に変化する解釈で学習する。がんをはじめ慢性疾患における真の意味での生活の質(QOL)とは何か、終末期を迎えた時の医療としての役割は何かを、がん治療法を主体とした臨床での実体験とその他の著作等を題材にして学習する。</p>		
成績評価の方法	レポートで評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。講義ごとにプリントを配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神看護学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	井上 誠		
研究室の場所	三原キャンパス 3501研究室		
オフィスアワー	講義時間など可能な限り学生さんに合わせますので遠慮なくご相談ください。		
授業の形式・方式	対面授業、グループワーク 臨床看護師との意見交換 精神看護に関連する調査研究法など 皆様の希望に可能な限り合わせます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	精神的・身体的ストレス、医療職者のメンタルヘルス、暴言・暴力、医療安全、精神科における倫理問題など		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	病院で働きやすい職場をどのようにしたらつくれるでしょうか。例えば、臨床で働いている医療職者は患者からの暴言や暴力をどのように受け止め、その後の医療にどのように影響しているのか、対策を含め検討したい。 医療職者のメンタルヘルスの向上やモチベーションの向上によって患者への質の高いケアに貢献できるのか、方法を含め解決法を考えていきたいと思っています。 病院における医療者に対する教育方法についても修士の皆さんと発展的に考えていきたいと思っています。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療職者のストレス、メンタルヘルスについて考える。 2. 病院で働きやすい環境について検討する。 3. 病院で困っていることについて検討しながら解決していく。 4. 精神科をはじめとした医療現場における倫理問題について探究する。患者の立場から、各医療職者の立場から、さまざまな視点で物事を検討していく。 5. 精神科・医療現場における医療者に対する教育方法について考える。 講義内容については学生のニーズに合った方法で進めていく予定です。		
成績評価の方法	課題レポート、発表、課題への取り組みを総合して評価する。		
テキスト	講義中で紹介、提示します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	精神看護学特論は精神科看護師以外でもさまざまなメンタルヘルスの問題やストレスの問題などについて考えていきます。 医療現場におけるメンタルヘルスについて一緒に考えていきませんか。 看護師以外でも大歓迎です。集中講義や時間の都合など可能な限り学生さんに合わせますので遠慮なくご相談ください。 なお、下記のシラバス情報は一例です		

授業科目名	公衆衛生活動特論		
担当教員氏名(助手氏名)	水馬 朋子		
研究室の場所	三原キャンパス 3417研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメール等で要予約）		
授業の形式・方式	対面授業 授業内容に応じて課題に対するレポート作成、プレゼンテーション及び討議		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	公衆衛生看護、住民主体、地域診断、政策形成、ソーシャルキャピタル		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域における保健・医療・介護・福祉の一体的提供をめざして、地域包括ケアシステムの構築が進められている。公衆衛生分野の職種だけでなく、介護・福祉等の職種も協働して住みやすいまちづくりをめざすことが望ましい。このため、住民の主体的活動を促し、地域の健康課題を把握し、地域特性を踏まえた地域課題解決に向けた健康政策策定の方法を理解する。		
授業の内容	地域診断と施策化の理論について学び、地域の健康課題の分析手法を探求する。さらに、地域診断結果をもとに、地域の健康づくり計画策定の方法を学び、政策形成に関する基本的技法について学習する。		
成績評価の方法	課題レポート、プレゼンテーション、授業の参加度を総合的に評価する。		
テキスト	講義の中で提示する。また、必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	地域包括ケアシステムが推進される中、地域診断や政策化の知識は重要になります。予習・復習も大切ですが、授業中に疑問が生じた場合は、その場で解決するよう努めましょう。		

授業科目名	看護教育学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	山中 道代, 黒田 寿美恵		
研究室の場所	三原キャンパス 3412研究室 (山中) , 3509研究室 (黒田)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業で行う。 講義, グループワーク, プレゼンテーションの形式を組み合わせる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	教育学, 教育評価, ファシリテーション技法, シミュレーション教育, 模擬患者演習, TBL (Team Based Learning), IBL (Inquiry Based Learning), デブリーフィング, 成人教育学 (アンドラゴジー), OSCE (Objective Structured Clinical Examination)		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ユニバーサル段階の大学生に対する効果的な教育方法を学ぶ。		
授業の内容	本科目は, 学士課程教育への従事を志す者あるいは, 成人学習に関心がある者を対象としている。学士課程教育においては, 学生の「生涯学び続け、どんな環境においても“答えのない問題”に最善解を導くことができる能力」を育成するために, 学生の思考力や表現力を引き出し, その知性を鍛える教育方法が必要とされている。本科目では, 教育の基礎的理論を理解したうえで, 最近注目されているシミュレーション教育, 模擬患者演習, TBL (Team Based Learning), IBL (Inquiry Based Learning), ファシリテーション技法について学ぶ。授業はディスカッションを主体としたグループ演習により展開する。		
成績評価の方法	授業への参加態度およびレポート		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ディスカッションには積極的に参加することを期待する。		

授業科目名	在宅ケア学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 麻里		
研究室の場所	三原キャンパス 3416研究室		
オフィスアワー	0848-69-1271		
授業の形式・方式	一部講義を取り入れ、主にセミナー形式で学生による発表とディスカッションによって授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	在宅ケア, 概念分析, 事例研究, 継続看護, 地域ケア包括システム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域ケア包括システム、今求められる在宅ケアについて自らの実践事例に基づいて考え、議論する。自分が印象に残る事例を振り返り(リフレクション)を行い、質的研究の手法を用いて、事例報告を作成する。 自己の研究テーマに必要な概念を明確にし、概念分析を行う。		
授業の内容	在宅ケアで用いられる概念について、概念分析および質的研究の手法について講義する。 在宅ケアに用いられる理論や概念を用いて、自分の事例の振り返りをした内容を発表する。自分の研究テーマに関する文献を集め、文献検討した内容を発表する。		
成績評価の方法	出席・参加50%, 課題30%, 振り返り20%		
テキスト	資料, 参考文献は随時配布する。		
参考文献	継続看護マネジメントー生活と医療を統合する看護学ー: 医歯薬出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	在宅または地域に暮らす人に関心があること。概念分析、質的研究、事例研究の手法に関心があること。 欠席の場合は連絡すること。		

授業科目名	急性期ケア学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	今井 多樹子		
研究室の場所	三原キャンパス 3508研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面授業を基本とするが、受講者の人数およびニーズを勘案し、調整する。与えられた課題に対するプレゼンテーションと討議を含めて進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	急性期看護、ICU看護、救急看護、看護実践能力、新人看護師、現状調査、教育評価、テキストマイニング、KJ法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	専門支持科目として、急性期医療・看護を取り巻くテーマを通して、課題となる現状を探求し、修士論文をまとめるうえで必要な知識と技術の理解を目的とする。		
授業の内容	急性期医療・看護をめぐる現状と今日的課題を、主要概念、看護理論、および既存研究の知見を踏まえて教育/実践的観点から探求する。重症患者とその家族に資する看護の在り方を検討するために必要な評価方法について、テキストマイニングやKJ法による自然言語データの解析例などを取り上げ、看護研究で援用されている評価方法の実際を学習する。		
成績評価の方法	出席、課題レポート、プレゼンテーションで評価する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	急性期医療・看護について関心のあるテーマをもって臨んでください。		

授業科目名	看護助産マネジメント学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 宏子		
研究室の場所	三原キャンパス 4422研究室		
オフィスアワー	随時（事前にメールにて連絡してください）		
授業の形式・方式	講義，プレゼンテーション，ディスカッション		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	看護職の職業生活，組織マネジメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	看護職が抱える問題意識を理論に基づき検討する。 看護職の職業生活や組織マネジメントの方法について議論し，論理的思考を修得する。 看護職や所属組織への実践的貢献が思考できる。		
授業の内容	受講生の問題意識に基づいた文献を検討し，実践的貢献について示唆を得る。		
成績評価の方法	講義への貢献度，プレゼンテーション資料，プレゼンテーションの内容から総合的に評価する。		
テキスト	講義の中で提示する。		
参考文献	田尾雅夫（1999）． 組織の心理学，有斐閣（東京） 宗方比佐子・渡辺直登 編著（2002）． キャリア発達の心理学 仕事・組織・生涯発達，川島書店（東京）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	欠席の場合は講義開始前までにメールで連絡すること。 プレゼンテーション担当時の欠席は不可とする。やむを得ない場合には，事前に担当者を交代する等の対応を学生間で取り，教員へ連絡すること。		

授業科目名	生涯発達心理学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小山里織		
研究室の場所	三原キャンパス 4426研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	発達心理学の重要トピックを扱う専門書を講読し、ディスカッションを行う。レポーターとコメンテーターは事前に割り当てるが、ディスカッションは全員で行うので、予習を必要とする。レポーターは、各回の授業までに、次回のレポートを作成し、全員に配布する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1. 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	親子関係, 生涯発達		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	授業でのレポート, コメント, ディスカッションを通じて, 自分の研究の進展に寄与する発達心理学的な思考を身につけることを目標とする。		
授業の内容	専門書は, 「親子関係の生涯発達心理学 (2013)」を講読する予定である。受講者には, 各章の内容を報告するレポーターの役割と, 議論の口火を切るコメンテーターの役割が割り当てられる。授業内では, 取り上げられた内容の意義について, 受講者全員で議論する。		
成績評価の方法	レポーターとしての役割50%, 討論への参加状況・発言の貢献度50%		
テキスト			
参考文献	親子関係の生涯発達心理学 氏家達夫・高濱裕子 風間書房		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回の授業で, 希望論文の割り振りと開講日程を確認する。 積極的に献身的な討論に参加することを期待する。		

授業科目名	脳神経機能病態学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 俊英		
研究室の場所	三原キャンパス 3524研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 16時から17時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	討論形式。あらかじめ与えられた関連するテーマについて討論する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	脳血管障害, 神経変性疾患, 遺伝性疾患, 免疫性疾患, 老年期疾患		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 内科学的な基礎的知識を基盤として代表的神経疾患について基本的かつ専門的内容を理解することを促し, 疾患の病態をさまざまな角度から検討するものである。本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられる。		
授業の内容	脳, 神経系の障害には様々な病態に起因する疾患がある。代表的な疾患を通じて脳, 神経系の機能障害の多様性について学ぶ。また, それに対応する評価法, 検査法, 診断法, 治療法についての基礎的, 専門的な知識を得るとともに最近の社会的な問題についても探る。		
成績評価の方法	出席, 討論内容, レポートによる。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	神経解剖学, 神経生理, 内科学的な医学的基礎知識が必要である。		

授業科目名	精神医学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4427研究室		
オフィスアワー	講義時に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式にて実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	精神疾患, 発症要因, 病態生理, 診断, 治療, 生物学的研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, おもに発生頻度が高い精神疾患の発症要因, 病態生理, 診断, 治療について理解することを目標とする。その上で患者の精神の問題を理解することができるように患者の行動観察, 心理の把握, 患者-治療者関係について理解する。また精神疾患の成因論や治療仮説への理解を深めるため, 生物学的研究についての知見を得ることも目標とする。		
授業の内容	精神障害の病態と治療について, 主に臨床精神医学と生物学的精神医学の側面から学ぶ。具体的には, 臨床精神医学で用いられている診断法や検査法, 治療法を学ぶとともに, 神経科学や精神薬理学的方法を用いた精神障害に関する成因論的研究や実証的な治療研究からもたらされた精神障害に関する病態仮説, 治療仮説を検証することで, 精神障害の病態と治療に関する科学的な理解を進める。これらの学習を通じて, 科学的根拠を持った精神障害者への援助を行うための知識を身につける。		
成績評価の方法	出席状況, レポート及びプレゼンテーションにて評価する。		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 教学課の掲示または授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	動作観察・分析学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 17時から18時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業および実験。学生は, 授業に出席し, 実験のレポートを作成・提出することを義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	動作観察, 動作解析, バイオメカニクス, 動作シミュレーション, 表面筋電図分析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	運動学的な分析を用いた研究を遂行する上で必要となる知識・技術の習得を目的とする。とくにリハビリテーション医学の分野での使用頻度の高い二次元動画(ビデオ)解析および表面筋電図計については独立してデータ計測できるレベルを目標とする。		
授業の内容	効果的な医学的リハビリテーションを実施する上でその治療・訓練の対象となる運動・動作障害を分析することは重要である。とくに基本的動作能力の回復を目的とする場合には, ヒトの動作を科学的に評価する能力が求められるのは周知の事実である。そこで主観的観察による分析と客観的バイオメカニクスの計測による分析について長所・短所を理解する。また, コメディカルの見地から福祉機器開発を行う上で必要なリハビリテーション工学的研究法についても各種機器によるヒトの正常な運動・動作の解析結果を通じて, 理解を深める。		
成績評価の方法	出席60%, 課題レポート(実験)40%の割合で評価する。レポート(実験)の課題は実験終了後に提示する。		
テキスト	教科書 『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「立ち上がり動作の筋活動分析がしたい」または「口角の二次元運動分析がしたい」等, 具体的に調べたい課題があれば授業が始まる前に連絡すること。できるだけその課題に合わせた実験を行います。なお, 実験は指定教室ではなく人体動体研究室(4416)で行うので注意すること。		

授業科目名	小児運動発達学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み, 場所は4429研究室. これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面, メール, スカイプなどを使用する		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	発達科学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	感覚・知覚・認知・運動発達の診かたやその分析方法を知る		
授業の内容	胎児期から学童期にかけての感覚・知覚・認知・運動発達の特性を理解し, 臨床的観点で考えることができるようになることを基本的な目標とする。そのうえで, 胎児期から学童期にかけての感覚・知覚・認知・運動発達の診かたやその分析方法が討議できることを目標とする。		
成績評価の方法	授業態度, レポート課題		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	感覚運動発達・学習特論		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み, 場所は4429研究室. これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	理学療法における小児の認知・運動発達の特徴を理解することを基本的な目標とする。そのうえで, 小児の認知・運動発達の診かたやその分析方法が討議できることを目標とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	胎児, 新生児, 乳幼児, 感覚・認知・運動, 発達・学習, 臨床運動学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	専門支持科目として, 受講者が専門科目を履修するうえで必要な知識を整理し, 理解を深める。		
授業の内容	胎児期から高齢期にかけての感覚・認知・運動の発達と学習を理解するために, 運動学(バイオメカニクス), 解剖学, 生理学, 物理学等の事前学習とその習得を前提に授業を展開する。また, 認知・運動発達に関する文献検索を行い課題を設定し, その課題に対して実験的・文献的検証を行う。		
成績評価の方法	授業態度(事前学習・質疑応答), 課題レポートの発表内容50%を総合的に判断して評価する。		
テキスト	適宜関連文献を配布する。また, 参考書の紹介も適宜行なう。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必要に応じて, 運動学(バイオメカニクス), 解剖学, 生理学, 心理学, 工学等の事前学習が必要であるため, 別途課題を提示する。		

授業科目名	環境制御運動学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 2501研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日 12時00分～13時00分 毎週月曜日 18時10分以降 (要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。日程を調整し、講義と演習形式で実施します。学生は授業に出席し、実験のレポートを作成・提出し、プレゼンテーションすることを義務付けられます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	臨床運動学、生活環境、動作解析、理学療法研究法、運動制御理論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	専門支持科目の一つ。環境―課題―身体機能の兼ね合いの中で表出される運動や動作について知識を整理し、理解を深める能力を養うことが目標です。		
授業の内容	人間の動作や運動に影響を及ぼす「環境と身体」の関わりについて理解するために、実験的・文献的検証を行う。ヒトが行う基本的動作に対し、環境面および身体機能の変化を付与し、表出される運動の変化について考察を加える。		
成績評価の方法	講義への参加態度50%、プレゼンテーション50%の割合で評価する。		
テキスト	講義内で資料を配布する		
参考文献	講義内で資料を配布する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	課題設定のため、事前に担当教員と相談しておくことが望ましい 運動・動作分析に関する学習および研究経験のない者は履修前に担当教員と相談すること		

授業科目名	臨床心理学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見 吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530研究室		
オフィスアワー	特に定めていない		
授業の形式・方式	対面授業。基本的に講義形式で行なうが、受講学生には毎回簡単な課題の提出と発言を求める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	精神力動的発達理論, 精神分析的療法, 心理アセスメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床心理学の立場から対人援助のあり方について検討していく。特に精神力動的な援助論に焦点をあてて、見立てから援助方針の設定、実際の援助への取り組みというプロセスを、事例を通して理解していく。		
授業の内容	臨床心理学的援助において用いられる技法、並びにクライアントに対する心理学的理解を深めるために欠かせない精神力動的発達理論と心理アセスメントの実際について教授する。毎回資料を事前に配布する。配布資料の予習ならびに資料についてコメントを毎回の授業で学生に求める。		
成績評価の方法	講義への参加状況ならびに期末に提出を求めるレポートによって評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。		
参考文献	参考文献は講義の中で示す。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	適応行動学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室		
オフィスアワー	講義日随時 場所は教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業. 遠隔講義対応. 適宜, 資料配布による講義および発表討論を行う.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	認知行動理論, 認知行動病理学, 認知行動療法, ポジティブ心理学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標に設定する。 (1) ストレスの心身に対する影響を, 認知行動理論をもとに理解する。 (2) メンタルヘルスに関する生活課題の心理学的援助の方法論を理解する。 (3) 心理社会的援助の効果研究について理解する。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 専攻における専門科目である。 .</p>		
授業の内容	<p>認知行動療法は, 様々な適応困難な場面において, セルフケアの効力を高める援助技術として知られている.すでに, 介入・援助技術として国際的なスタンダード技術として位置づけられており, 心理・福祉職のみならず, 様々な専門職に活用されている.講義では, その概要を教授するとともに, 実践の活用事例を通して, 効果の実際を討論する. .</p>		
成績評価の方法	プレゼンテーション資料(30%), レポート作成(30%), 授業への参加態度(20%), 討論への参加態度(20%)		
テキスト	テキストは使用しない.		
参考文献	参考文献は適宜示す.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	積極的な学習態度を望む.		

授業科目名	ソーシャルワーク特論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光		
研究室の場所	三原キャンパス 4526研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義については、主に講義形式を取るが、後半は演習形式で幾つかの事例について治療計画を立てる		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	社会福祉の現状、孤独死、ホームレス、児童虐待、被爆者支援、医療ソーシャルワーク、障害者福祉		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では、日本の社会福祉の現状の問題を高齢者、障害者、ホームレスなどの様々な対象者の問題状況から言及し、日本の社会福祉の展望について考えてみたい。		
授業の内容	「日本の社会福祉の現状と展望」(岩崎学術出版社：三原博光編)のテキストから「孤独死から見える日本の高齢者福祉」「障害者福祉の現状」「地域福祉問題」「貧困問題」「児童虐待問題」「被爆症患者の支援問題」の問題を取り上げ、講義を行う。		
成績評価の方法	出席と課題レポート		
テキスト	教科書：三原博光編「日本の社会福祉の現状と展望」岩崎学術出版社、プリント配布		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	岡崎 仁史 [非常勤講師]		
研究室の場所	広島国際大学医療福祉学部		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。基本的事項を講義しながら随時、討論を行い、それを深める形で授業を進め、受講生はさらにそれをレポートに纏める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域福祉、コミュニティ・ソーシャルワーク、コミュニティワーク		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	第2次世界大戦後の日本の地域福祉、地域援助技術、社会福祉援助技術総論における地域援助技術、住民の主体化、コミュニティ・ケア、技法を学修する。		
授業の内容	<p><第1～5回> 社会福祉、社会福祉援助技術、地域援助技術、支援過程、原則、地域福祉の価値、地域社会地域援助技術を住民運動ではなく社会福祉援助技術に位置付ける。</p> <p><第6～10回> 地域援助技術のモデル、コミュニティ・オーガニゼーション、第2次世界大戦前後の地域援助技術のモデルをたどって理解する。</p> <p><第11～15回> アメリカのコミュニティワーク (J. ロスマンなど) 第2次世界大戦前後の地域援助技術のモデルをたどって理解する。</p>		
成績評価の方法	発表 (10%)、討論 (20%)、レポート (70%)		
テキスト	資料を配布する。		
参考文献	<p>○岡村重夫『地域福祉論』</p> <p>○野口 定久、平野 隆之、岩田 正美『リーディングス 日本の社会福祉 6地域福祉 (リーディングス日本の社会福祉)』日本図書センター 2010年 ISBN978-4284303491</p> <p>○右田紀久恵『自治型地域福祉の理論』ミネルウ ア書房 2005年 ISBN978-4623043767</p> <p>○日本地域福祉学会編 『新地域福祉事典』中央法規 2006年 ISBN4-8058-2519-7</p> <p>○久保紋章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店 2005年 ISBN978-4761008215</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	介護福祉特論		
担当教員氏名(助手氏名)	國定 美香		
研究室の場所	三原キャンパス 4531研究室		
オフィスアワー	メールにて、予約をしてください。		
授業の形式・方式	講義と演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	介護福祉のあり方・人権の尊重・個別性の重視		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1. 介護福祉のアプローチについて理解する。2. 少子高齢社会における高齢者の実態から、多様化した社会福祉ニーズを理解する。3. 認知症高齢者に対する介護福祉のあり方について検討する。4. 高齢者虐待に対する介護福祉のあり方について検討する。5. 人権の尊重と介護福祉の係わりについて検討する。		
授業の内容	「人権の尊重」・「個別性の重視」の視点に基づき、介護福祉の在り方について考究することを目的とする。具体的には、多様化する社会福祉ニーズから、援助対象者の生活課題への理解を深める。さらに、認知症高齢者に対するケアや高齢者虐待から、人権の尊重と介護福祉の係わりについて検討する。		
成績評価の方法	レポート、試験で総合的に評価します。		
テキスト	参考資料を配布します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神保健福祉特論		
担当教員氏名(助手氏名)	江本 純子		
研究室の場所	三原キャンパス 2516研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面式授業（発表・討論を含む）		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	職場のメンタルヘルス、こころの病、精神障害、労働政策、就労支援、障害者雇用、職業リハビリテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>精神保健福祉とは、現代に生じているさまざまな問題をひとの心と社会のありかたとの関連でとらえ、「現代社会におけるひとの幸せ」を、実践的に追求してゆくこころみです。</p> <p>授業では、はじめに講師が現代の労働現場で生じている問題を精神保健福祉を切り口にして報告します。その後、学生がそれぞれの興味関心に基づいてみずからの研究テーマや身近に生じている問題を研究し、発表・討論を行います。</p> <p>こうした一連の作業を通して、社会的問題について多角的な視点で構造的に捉える学習をします。</p>		
授業の内容	<p>4人に1人の人が、一生のうちに一度はこころの病になるといわれています。この発症と経過が労働年齢にかかる場合も少なくありません。こころの病からくる障害(以下、「精神障害」とする)を抱えつつ働くための施策は、2000年代以降、少しずつ充実していますが、なお就労継続を希望しながら職場を去るひとや、就職を希望しつつも適切な職場が得られない精神障害者がいることも事実です。</p> <p>授業では、まず、講師が上記についての問題提起をし、その後、参加学生がそれぞれの問題関心に従った発表・討論をします。</p>		
成績評価の方法	3分の2以上出席者のみに試験あるいはレポートを実施し、この結果を評価します。なお、授業中の課題提出、質問への応答、討論への参加、発表は、授業参加の必須条件であり、個別に評価はしません。		
テキスト	適宜紹介します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>研究は、単に孤独な作業を続けるだけでなく、さまざまな視点、切り口からの指摘を受けつつ、互いに深めてゆくものです。そこで、この授業では、研究発表と討論を重視しています。こころして参加してください。</p> <p>授業進行は、参加人数、参加者の研究テーマ、問題関心等に応じて変更しますので、ご了承ください。</p> <p>なお講義日程は、履修登録者全員の希望を聞いて決定します。</p>		

授業科目名	障害者福祉論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	広島キャンパス 1317研究室		
オフィスアワー	木3限		
授業の形式・方式	広島キャンパス以外の受講生に対しては遠隔講義で行う。教科書を指定し、それについて各自が報告していく。広島キャンパス以外の受講生も同様である。受講者数によっては、障害者関連のメディアを鑑賞し、それに基づいたディスカッションを行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	障害、ディズアビリティ、インペアメント、社会モデル、個人モデル		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	障害学の基本的認識である社会モデルについて理解できるようにする。		
授業の内容	障害学の基本図書を輪読していく。各自担当を決めて、その概要、問題点、批判点、コメント、議論のテーマを発表してもらう。ちなみに、障害学とは、医学・教育といった観点から障害をとらえるのではなく、社会・文化的観点から障害にアプローチする学問である。		
成績評価の方法	報告と議論への参加に基づいて総合的に評価する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	福祉政策特論		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡子		
研究室の場所	三原キャンパス 2517研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	グループディスカッション、ワークショップ		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目	特になし		
キーワード	社会福祉政策、実証研究方法、質的研究方法、医療と福祉の連携と協働、地域包括ケアシステム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①グローバル化の進展と同時に注目されている「コミュニティ」をテーマとして、地域包括ケアシステムの中でも医療と福祉の連携や協働の在り方を社会福祉政策の位置づけと動向を踏まえて検討する。</p> <p>②保健・医療・福祉の領域のヒューマンサービスにおける課題に不透明さを明示する方法としてKJ法に代表される質的調査方法を学ぶ。事例に潜む課題を探求し、統合化を図る手法や論述方、領域密着型からフォーマル理論への応用までを検討する。</p>		
授業の内容	<p>①医療と福祉の連携や地域包括ケアシステムなど、今日求められている社会福祉政策の動向を見据えた文献研究</p> <p>②フォーマル理論へ応用できる社会調査の方法と技術、実証研究に求められる質的研究方法（KJ方やグラウンデッドセオリーアプローチの方法について）について学ぶ</p>		
成績評価の方法	①出席 ②報告・発表 ③その他講義《討論》への参加等について評価する。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	『質的研究入門<人間の科学>のための方法論』ウヴェ・フリック（2011）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	国際保健福祉学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光, 笠置 恵子, 金井 秀作, 吐師 道子, 吉川 ひろみ		
研究室の場所	三原キャンパス 4526 (三原), 3422 (笠置), 4421 (金井), 3513 (吐師), 3404 (吉川)		
オフィスアワー	随時 (メールで三原の方に連絡すること)		
授業の形式・方式	対面授業、海外フィールドワーク		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	海外、フィールドワーク、ヘルスケア		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外のヘルスケア関連機関におけるフィールドワークを通して、現在の国際保健福祉についての理解を深め、将来の課題と展望について考察することを目標とする。県立広島大学と国際学術交流協定を結んでいる大学と提携しているヘルスケア関連機関でフィールドワークを行う。		
授業の内容	実際に海外のヘルスケア関連機関を訪問・視察する。また、訪問の事前・事後に海外のヘルスケア機関・制度に関する指導教育を行う。		
成績評価の方法	フィールドワークに関するレポート		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	三原博光著：介護の国際化（学苑社）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目を履修希望をするものは、事前に担当(三原)に相談すること。また、本科目が開講されない年度もあることも留意して下さい。		

授業科目名	生体環境反応学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	脳、脊髄、脳神経、脊髄神経、自律神経系、体性感覚、痛み		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域保健学・実践看護学分野の専門科目の一つである。後期に開講する生体環境反応学演習の準備段階の科目となる。人体の構造と機能に関する理解を深める一環として、主として自律神経系の神経機構と体性感覚の伝導路について学び、新たな看護技術開発のベースとなる知識の養成を目標とする。		
授業の内容	自律神経系の神経路とその支配域について理解を深め、その神経系の出力が及ぼす各臓器、器官系の反応についても考察する。また、温痛覚、触圧覚などの体性感覚の伝導路について、その感覚の受容器としての皮膚の構造を理解するとともに、どのような神経路によって中枢へ伝わるかを整理する。特に、体性痛と内臓痛の違いについて、さらに、関連痛が起こるメカニズムについても神経解剖学的立場から理解を深める。		
成績評価の方法	出席状況、課題レポートなどを総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献	参考テキスト、参考文献などを随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学のうち、特に神経系の総論に関する一定の知識を持っていることを前提に授業を進めるので、必要な予備知識の習得に務めておくこと。		

授業科目名	生体環境反応学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業を基本とするが、受講者数および受講者の興味と特性に応じて授業形式は変更する。必要に応じて、解析技術の実技指導も行う。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自律神経系、視床下部、脊髄、脳神経、脊髄神経、体性感覚、痛み、睡眠、摂食		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域保健学・実践看護学分野の専門科目の一つである。前期に開講した生体環境反応学特論を学んだ者が修士論文作成をめざす立場で学ぶ科目である。必要であれば修士論文作成上必要となる研究技術などの理解に関する援助も行う。		
授業の内容	生体を取り巻く様々な外的要因（侵害刺激、機械的刺激、化学的刺激、温度刺激など）によって影響を受ける自律神経系の反応について、神経解剖学的立場からその求心路と遠心路について理解を深め、またその神経系の出力が及ぼす各臓器、器官系の反応についても考察する。特に本演習では、自律神経系に関連する神経路を、実験形態学的手法および神経路標識法などの手法を用いて解析する技術を学ぶ。		
成績評価の方法	出席状況、課題レポート、または報告などを総合的に評価する。		
テキスト	参考文献・資料などを随時紹介・配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	事前に配布する文献や資料を熟読の上で授業に参加することを心がけること。		

授業科目名	健康科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式の授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域保健疫学社会資源		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1 地域保健にかかわる社会資源について理解する。 2 疫学的評価について理解する。		
授業の内容	地域保健にかかわる社会資源の連携体制について課題レポート作成のための調査分析課題レポート作成レポート提出と発表集団討議		
成績評価の方法	レポート提出および発表（詳細は授業で指示します。）		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必要に応じて授業時間割を協議の上、調整します。		

授業科目名	健康科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域保健疫学的調査分析		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	修士論文作成のための事前調査を行い、調査方法などについて検討することを目標とする。		
授業の内容	修士論文作成の準備 調査方法の検討 文献調査		
成績評価の方法	レポート提出および発表（詳細は授業で指示します。）		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必要に応じて授業時間割を協議の上、調整します。		

授業科目名	地域保健学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置 恵子		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域保健学の概念の理解, 地域保健活動の目的, 活動の枠組み, 活動の展開過程		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域保健学の概念, 歴史的変遷を理解したうえで地域保健活動の方法論(問題の発見, 実態の把握から評価までの過程)を理解することを目標とする。 また後期の地域保健学演習への導入を図るものである。		
授業の内容	地域保健学の概念と歴史的変遷, 地域保健活動の枠組み, 活動の場, 対象, 方法論の理解, 疾病の進展と予防, 地域保健活動の展開について学習する。		
成績評価の方法	課題レポート提出, プレゼンによる発表, 積極的な参加態度により評価		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必要に応じて授業時間割を協議の上、調整します。		

授業科目名	地域保健学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	笠置 恵子		
研究室の場所	三原キャンパス 3422研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク, プレゼンテーション		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域保健学分野の研究の外観と具体的研究方法の検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域保健学分野の研究を概観し, 最近の先行研究から研究方法を具体的に検討する。 興味あるテーマを設定し, 研究方法の選択について考える。		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健学分野の先行研究の文献検索 ・その内容(対象の設定, 方法論, 考察の展開)の分析 ・近年の先行研究の動向から現状と課題を考察する ・興味あるテーマを設定し, 研究方法の選択について考える。 		
成績評価の方法	レポート提出およびプレゼン発表		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必要に応じて授業時間割を協議の上、調整します。		

授業科目名	がん看護学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡光 京子		
研究室の場所	三原キャンパス 3512研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	履修予定者のニーズによっては集中講義を行う場合もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象。がん治療学特論、医療福祉倫理学特論を選択することが望ましい。		
免許等指定科目			
キーワード	がん患者および家族の特性、治療を受けるがん患者および家族の特性、援助、意思決定、倫理的問題、看護理論、看護倫理、看護介入モデル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	がん患者と家族への看護に主に用いられる概念や理論について探求するとともに、実践および研究への適用について検討する。		
授業の内容	がん患者と家族の特性ならびにそれらの人々を理解するための概念や理論について学習する。また、がん対策基本法、治療に伴う倫理的問題、患者教育に関する概念や理論を学習する。手術療法、化学療法、放射線療法などの治療、危機状況、ターミナル期などの状況における患者・家族への看護援助に関する理論、方法論について学習するとともに、特定のがん患者と家族に対する看護援助を検討する。		
成績評価の方法	演習の参加度および課題達成状況(40%)、課題レポート(60%)		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	学習の進度に応じて文献を紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、主体的に学習して授業に臨むこと。		

授業科目名	がん看護学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	岡光 京子		
研究室の場所	三原キャンパス 3512研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	履修者のニーズによっては集中講義を行う場合もある。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	がん看護学特論を履修していること。		
免許等指定科目			
キーワード	がん患者および家族の特性、援助、倫理的課題、QOL、ソーシャルサポート、看護介入モデル、実践への適用		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	がん看護学特論で学修した知識をもとに、自らの研究課題を明確にするために国内外の文献を検討し、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションにより研究課題の明確化を進める。		
授業の内容	がんの治療過程を入院や外来、在宅といったさまざまな生活の場で継続していくにあたって、がん治療の効果を促進して合併症や副作用対策を効果的に実施するための支援、患者・家族の治療と生活のバランスをとるための支援、患者・家族の心理的サポート、治療・療養の場などの意思決定を支える支援、患者・家族を取り巻く倫理的課題など、学生が日ごろから感じているがん患者および家族のさまざまな局面を取り上げ、文献をクリティークすることによりわが国のがん患者および家族への援助の課題と援助の方向性を理解する。		
成績評価の方法	演習の参加度(20%)、課題レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	随時紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、主体的に学習して授業に臨むこと。		

授業科目名	小児看護学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美		
研究室の場所	三原キャンパス 3520研究室		
オフィスアワー	特に設定しない		
授業の形式・方式	講義内容に応じて提示した文献や資料、課題に対するレポート作成、プレゼンテーションおよび討議		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生涯発達、移行理論、主体性、セルフケア、親性、母性、父性、小児看護、家族看護、在宅看護、看護倫理、子どもの権利、インフォームド・コンセント、アセント、小児看護ケアモデル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生涯発達の視点から個人と家族の成長・発達や変化をとらえ、社会の動向、多様化する価値観による対象者への影響を考慮しながら現象を意味づける。現代の健康上の諸問題または医療・看護の場における問題の中から着眼した問題について、各専門分野の実践へ応用するための理論的および実践的アプローチを模索する。		
授業の内容	生涯発達の概念と、それに応じて変化する個人・家族のセルフケア能力・機能について諸理論を用いて理解する。医療の場における子ども・家族の権利保護の変遷と保健福祉の動向を把握する。生活環境をはじめ医療や看護の場における事例や課題を設定し、現象を分析・解釈した上で患者や家族の主体性を尊重した解決策や支援の具体的方法について討議する。		
成績評価の方法	課題レポート、発表、課題への取り組みを総合して評価する。		
テキスト	講義の中で提示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義に関連する内容について、各自の専門領域における医療や看護の動向について関心をもっておくこと。 履修者の研究テーマに関する文献を選び、クリティークを行うので資料を各自で準備する。		

授業科目名	小児看護学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	松森 直美		
研究室の場所	三原キャンパス 3520研究室		
オフィスアワー	特に設定しない。メール等にて事前に日程調整してほしい。		
授業の形式・方式	対面授業及び各自のテーマに応じた臨地での演習と報告		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象 小児看護学特論を履修していること		
免許等指定科目			
キーワード	生涯発達、移行、主体性、セルフケア、親性、母性、父性、在宅ケア、小児看護ケアモデル、プレパレーション、看護教育、看護倫理、実践への応用		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	小児看護学特論において用いた概念や理論について実践的な探求を行い、自己の看護実践能力や専門性を高めるとともに、臨床および研究への適応や普及の可能性について検討する。		
授業の内容	小児看護学特論において議論した自身の研究テーマの中から課題を設定し、実践、教育、相談、調整、研究、倫理的対応のいずれかについて計画し、結果の分析および考察した内容を報告する。		
成績評価の方法	演習への取組み、課題達成状況 (40%)、課題レポート (60%)		
テキスト	必要に応じて提示		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	医療や看護の場に関する諸問題や専門領域における課題について、小児看護学特論および関連領域の科目において修士論文作成につながるテーマで学習し探究する姿勢をもっておくことが望ましい。		

授業科目名	基礎看護学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗		
研究室の場所	三原キャンパス 3522研究室		
オフィスアワー	随時(要予約)		
授業の形式・方式	対面方式で行う。一方的な講義でなく、議論しながら進めていく。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	看護の本質, 看護の対象, 看護技術, 看護過程,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	看護の対象である人間の理解と実践の科学としての看護を看護理論や看護技術論、対人関係論との関係の中で追求する。		
授業の内容	1. 看護理論や看護技術論、看護管理、対人関係論について文献等で学習する。 2. 講義および文献学習とともに、看護を自己の実践活動の中から振り返り、看護実践の特質を考える。		
成績評価の方法	講義・演習への参加度と課題レポート		
テキスト	講義時に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は主体的に予習して授業に臨むこと。		

授業科目名	基礎看護学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	折山 早苗		
研究室の場所	三原キャンパス 3522研究室		
オフィスアワー	随時(要予約)		
授業の形式・方式	対面授業を講義と演習形式で行う		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	看護の本質, 看護の対象の理解, 看護技術, 看護管理, 看護技術研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	基礎看護学特論で学習した概念・理論を基に、これまでの看護実践や文献等の中から自己の問題意識や関心あるテーマを取り上げ、これからの研究課題を明確にしていく。		
授業の内容	看護理論や看護実践に関する文献の読解や検討などを通し、自己の看護に関する問題意識や関心あるテーマについて討議しながら、研究課題を明確にしていく。		
成績評価の方法	課題レポート、課題発表、出席態度を総合して評価する。		
テキスト	講義時に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	これまでの看護実践を通して関心あるテーマを取り上げ、それに関する国内外の文献を収集し、整理して臨む。		

授業科目名	医療情報統計学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください		
授業の形式・方式	セミナー形式の授業を行う。教員による講義だけでなく、時事に即した諸問題（生活習慣やストレス・うつ病、バイオマーカーなど）や自ら行っている研究について学生による発表とディスカッションによって授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	医療画像情報、画像検査、画像モダリティ、X線、散乱X線、被曝線量、CT、MRI、心理的、統計解析、統計的推測、データ処理、生活習慣、バイオマーカー、ストレス、うつ病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 医療従事者にとって統計学の知識は必須である。統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させる。そして、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 この科目は総合リハビリテーション分野運動行動障害学領域の専門科目であるが、同分野コミュニケーション障害・脳科学領域の脳機能画像学特論を併せて履修することが望ましい。</p>		
授業の内容	<p>時事に即した諸問題（生活習慣やストレス・うつ病、バイオマーカーなど）に関する英文の文献を講読する。また、デジタル画像システムのコントラスト特性、解像特性、ノイズ特性などの画質に関する物理的画像評価の方法や骨密度評価といった医療情報のみならず、統計学的手法を用いた信号検出理論や精神医学に基づく心理的尺度（SDS、STAIなど）の基礎と応用について学習する。 自ら行いたい研究についての研究デザインをディスカッションする。</p>		
成績評価の方法	授業中の発表やディスカッションへの参加状況50%，レポート50%の割合で評価する。授業の進行に合わせて2～3回レポートを提出する。		
テキスト	教科書：指定しない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	問題意識を持って、積極的にディスカッションすることを期待する。		

授業科目名	医療情報統計学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
授業の形式・方式	学生または教員が選んだ国内外の時事に即した諸問題（メンタルストレスや社会医学的問題）に関する文献を精読し、ディスカッションを主体とした授業講義を行う。		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	医療画像情報，X線，散乱X線，被曝線量，CT，MRI，心理的評価，信号検出理論，統計解析、統計的推測，データ処理，生活習慣，バイオマーカー，ストレス，うつ病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	時事に即した諸問題（生活習慣やストレス・うつ病、バイオマーカーなど）に関する文献を精読して医療情報統計学特論で学んだ事柄についての理解を深める。運動行動障害学特別研究のテーマの選択や研究方法の検討に役立つ。		
授業の内容	演習を通じて各種医療画像検査やモダリティの現状、そして社会医学的諸問題について、将来展望を明らかにし、専門職業人としての高度な知識と技術を修得する。①国民健康・栄養調査などの厚生統計を理解するために必要な基本的な統計②人間の集団を対象とした健康科学を取り入れた疫学・医療統計、③筋骨格系の単純X線・CT・MRIやNIRS画像を用いた医療画像情報学、④生活習慣やストレスとうつ病、生活習慣と骨関連バイオマーカーとの関連についての研究、⑤自らの研究課題の研究デザイン、以上に関して文献等を調べながらディスカッションを主体とした演習およびコンピュータ用いて統計解析を行う。		
成績評価の方法	文献調査および研究デザインの理解を深め、ディスカッションへの参加状況で評価する。		
テキスト	時事に即した諸問題（生活習慣やストレス・うつ病、バイオマーカーなど）に関する文献を用いる。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	専門雑誌を閲覧して興味のある文献を自分で探すことが望ましい。		

授業科目名	運動障害病態学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み、場所は研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業を行います。授業日程に従って、講義形式で実施します。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させます。学生は授業に出席し、課題を作成・提出することが義務付けられます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	廃用症候群, 関節可動域制限, 筋性拘縮, 関節拘縮, 筋萎縮		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	運動障害の病態を理解し、その効果的治療法を検討するために必要な基礎的知識の習得が講義の目標です。また、関連する分野の最新の知見についても学習します。		
授業の内容	主として筋・骨格・神経系を原因とする運動障害に関して、その原因となる病理・病態を探求し、効果的な治療方法の解明に結びつけていくことを目的とします。特に、基礎医学的観点から明らかになった事項を学び、臨床医学にどのように関連していくかを学習します。具体的には、配布資料や参考図書および文献を用い、現在解明されている事項の理解を深め、問題点を明らかにすることを目的とします。		
成績評価の方法	成績評価は、課題レポート80%、出席および出席態度20%の割合で評価します。レポートの課題および提出期限は別途指示します。		
テキスト	資料、参考文献を随時配布します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	運動障害評価学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也		
研究室の場所	三原キャンパス 4431研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義と演習形式で実施します。講義の受講にあたり、事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。必要に応じてレポート課題を課し、指定した日に提出させます。学生は、授業に出席し、課題を作成・提出することが義務付けられます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	関節可動域制限, 筋伸長性, 廃用症候群		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	関節可動域制限を予防するために必要な関節の運動について文献研究を通してこれまでに明らかになっている点や問題点を理解する。また、その解明に必要な定量的評価方法について学習する。		
授業の内容	運動障害の発生予防方法や治療方法の発展を目指し、筋電図をはじめ様々な生体工学的手法を用いた定量的評価方法を駆使して探究する。そのために、運動障害に対する理学療法の考え方と評価方法について最近の研究論文を通して論点を学習する。		
成績評価の方法	成績評価は、課題レポート80%、出席および出席態度20%の割合で評価します。レポートの課題および提出期限は別途指示します。		
テキスト			
参考文献	参考文献を随時配布および紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡などによって行います。		

授業科目名	運動障害評価・病態学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明, 小野 武也		
研究室の場所	三原キャンパス 3523研究室(沖), 4431研究室(小野)		
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み. これ以外の面談は要予約.		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って, 講義と演習形式で実施します. 講義の受講にあたり, 事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です. 必要に応じてレポート課題を課し, 指定した日に提出させます. 学生は, 授業に出席し, 課題を作成・提出することが義務付けられます.		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	廃用症候群, 関節可動域制限, 筋性拘縮, 関節拘縮, 筋萎縮		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	運動障害の効果的治療方法を検討するために必要な具体的研究手法の習得が講義の目標である. また, 関連する分野の研究手法の応用や新たな研究方法の開発も検討する.		
授業の内容	<p>運動障害の効果的治療方法を検討するには, 的確な評価法とその評価の裏付けとなる病態の把握が重要である. 本演習では, まず運動障害評価学特論および運動障害病態学特論の講義内容を基盤として, 運動障害の評価・病態に関する問題点について国内外の関連文献を購読し検討を行う. さらに, 運動障害の病態・評価に関する問題点を明らかにするための多様な方法論について演習を通して学習し, 具体的なデータの取得技術を習得する.</p> <p>【オムニバス方式】</p> <p>(沖教授) 運動障害の病態について検討するとともに, 形態学を中心とした基礎医学的手法の習得技術について学習する.</p> <p>(小野教授) 運動障害の評価について検討するとともに, 筋電図をはじめ様々な生体工学的手法を用いた定量的評価技術について学習する.</p>		
成績評価の方法	成績評価は, 課題レポート80%, 出席および出席態度20%の割合で評価します. レポートの課題および提出期限は別途指示します.		
テキスト	参考文献を随時配布する.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行います.		

授業科目名	筋・骨格系運動障害治療学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田 一彦		
研究室の場所	三原キャンパス 2510研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日15時から17時。場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義および討議の形式で実施する。関連文献を該当講義の前週に配布するので、次の講義までに熟読し自分の意見を述べる必要がある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動器損傷, 運動療法, 運動療法の歴史, 機能回復, 神経-筋の協調性, 運動学習, 運動の認知過程, 運動イメージ, 言語記述		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	筋・骨格系に起因する運動障害は、筋、骨、関節、靭帯などの運動器に生じた様々な病態から派生した複雑な様相を呈する。筋・骨格系運動障害治療学特論では、それを医学関連領域を含む幅広い理論体系から多面的に理解する。そのうえで、運動療法を中心とした治療戦略を、古典的なものから最新のものまで体系的に学習し、その問題点と展望について考える。		
授業の内容	授業では、まず筋・骨格系に起因する運動障害に対する運動療法の歴史を概観する。その手法が筋力や関節可動性といった運動の個々の要素に対する還元主義的な科学観に基づいたものが中心となってきたことを把握したうえで、それを乗り越えるための運動療法の展開を、神経-筋の協調性および運動学習の面から検討する。運動療法の具体的な手法としては、閉鎖運動連鎖での運動療法、固有受容性訓練、認知運動療法などを題材に取り上げ学習を進める。		
成績評価の方法	出席30%、毎週配布する関連文献の熟読状況20%、最終回に提示する課題レポートの内容50%で評価する。		
テキスト	授業ごとに関連文献を配布する。		
参考文献	参考書の紹介を適時行う。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この科目は、筋・骨格系に起因する運動障害に対する運動療法の手技を教授するものではない。運動療法の歴史とその背景となっている科学観を把握し、この領域における運動療法を今後どう展開していくべきかという点を検討することが主たる目的である。よって、配布する文献資料を熟読することはもちろん、自らも情報収集に努め、常に考え発言する姿勢を前面に出して欲しい。		

授業科目名	機能・形態障害治療学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 聡		
研究室の場所	三原キャンパス 2513研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日の16時から18時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業を行います。授業日程に従って、主に講義、関連文献の輪読および討議の形式で実施します。講義では院生は積極的に討議に加わることを求めます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	機能・形態障害、運動療法、物理療法、義肢装具療法、リハビリテーション工学、人間支援工学、仮想運動環境装置		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	リハビリテーションの治療場面では、様々な疾病や外傷に起因する多様な機能・形態障害が見受けられます。本講義では、その障害に対するリハビリテーション的治療法について論議を行います。そのためには、病態と障害像を把握したうえで、学際的領域から最新の治療法を学習する必要があります。さらに講義後半では障害予防にまで論議を展開していきます。		
授業の内容	講義では、代表的な機能・形態障害に対する治療法を歴史的背景をまじえ概観します。外国論文を熟読するなどして最新の治療法を論議していき、さらに院生各自が症例検討を通じて理解を深めます。種々の治療法を論議していくなかで、現在の機能・形態障害に対する治療法の理解と同時に課題について学習していきます。		
成績評価の方法	演習時討議への参加状況50%、課題レポートの発表内容50%で評価する。		
テキスト	講義ごとに関連文献を配布する。		
参考文献	参考書の紹介を適時行う。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	事前に配布する文献や資料、紹介する参考書を熟読し講義に参加してください。		

授業科目名	運動障害治療学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	沖田 一彦, 田中 聡		
研究室の場所	三原キャンパス 2510研究室(沖田), 2513研究室(田中)		
オフィスアワー	沖田 一彦: 毎週水曜日15時から17時。これ以外の面談はともに要予約。 田中 聡: 毎週水曜日12時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	演習主体。授業日程に従って, 研究論文の抄読と討議, およびビデオ事例の検討の形式で実施する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中枢神経, 運動器, 運動障害, 運動療法, 物理療法, 義肢装具療法, 評価, 治療, 事例検討, 研究		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>(概要) 「機能・形態障害治療学特論」と「筋・骨格系運動治療学特論」での講義内容を基礎とし, 運動障害に対する効果的な運動療法を臨床的な問題に立脚して検討・開発していくための視点・方法を, 研究論文や事例を通して考える。</p> <p>【オムニバス方式】</p> <p>(田中聡) 種々の機能・形態障害に対する治療アプローチの方法について, 臨床医学的観点からみた問題解決法を研究論文などを通して学習し, 研究題目の策定方法について理解を深める。</p> <p>(沖田一彦) 筋・骨格系運動障害に対する効果的な治療アプローチの方法について, 関連文献の抄録や事例の検討を通し, それを臨床的な問題に沿って検討・開発していくための具体的な研究方法について学ぶ。</p>		
授業の内容	<p>(田中聡) 様々な疾病や外傷に起因する多様な機能・形態障害に対する運動療法, 物理療法, 義肢装具療法の方法やその効果に関する研究論文の抄読と討議を実施する。また, 実際の事例や臨床データを用い検討を深めていく。特に研究デザインや効果の測定方法について注意深く検討することで, 自らの研究計画の参考となるようにする。</p> <p>(沖田一彦) 筋・骨格系運動障害に対する運動療法の方法やその効果に関する研究文献の抄読と討議を実施する。また, 臨床的な視点を強化するためにビデオを用いた事例検討も実施する。文献抄読では研究デザインや効果の測定方法について注意深く検討することで, 自らの研究計画の参考となるようにする。</p>		
成績評価の方法	<p>(田中聡) 出席30%, 討議への参加状況20%, 最終回に実施する口頭試験の結果50%で評価する。</p> <p>(沖田一彦) 出席30%, 討議への参加状況20%, 最終回に提示する課題レポートの内容50%で評価する。総合成績は, 田中と沖田の成績を各々50%ずつで判定する。</p>		
テキスト	講義ごとに関連文献を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研究論文の研究デザインや方法について学習を深めることで, 自分の研究計画立案の参考にして欲しい。そのためには, 配布する文献資料を熟読することはもちろん, インターネットなどを利用し自ら最新情報の収集に努めて欲しい。		

授業科目名	生体情報計測学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。 		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を基本とするが、受講者全員の同意がある場合は三原キャンパスからの遠隔授業、夜間・土曜日開講やその他の形態にも対応する。 ・必要に応じて講義も行うが、生体情報計測学に関するテーマについて調査研究を実施し、その結果をレポートとしてまとめ、報告を行う演習形式を主体とする。 		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生体情報, 生体機能, 生体計測, センサ技術, システム工学, 合目的性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は総合リハビリテーション分野の運動行動障害領域における専門科目に区分される。 ・受講者は「生体情報計測学の理解と修得」を目標とする。 ・具体的には、生体諸情報の各種計測手段や方法について調査研究するとともに、新しい生体計測技術の開発を目指し、そのために必要な基礎知識を養うことを受講者の目標とする。 		
授業の内容	<p>感覚系, 運動系などの各種生体機能をシステム工学的なアプローチにより解析し, 生体制御システムや生体が有する合目的性について理解するとともに, 生体計測法やセンサ技術の基礎原理と応用例について調査・研究を行う。</p>		
成績評価の方法	授業参加 (出席状況と授業への取り組み態度) とレポート内容による総合評価を行う。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (教科書) は特に指定しない。 ・必要に応じて資料を配布する。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の他, 授業の進行に応じて適宜紹介する。 ・山越憲一, 戸川達男『生体用センサと計測装置』コロナ社, 2000年 		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉分野で汎用される各種計測機器を有効に利用するための基礎知識を習得する上で, 生体情報計測学特論は重要な科目です。 ・予習・復習も非常に大切ですが, 授業中に疑問を生じた場合はそのままにせず, なるべくその場で解決するようにしてください。 ・また演習形式の授業は通常の受け身の講義とは異なり, 能動的に手足と頭脳を働かせ, 積極的に授業に参加する態度が必要となります。 		

授業科目名	生体情報計測学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。 		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を基本とするが、受講者全員の同意がある場合は三原キャンパスからの遠隔授業、夜間・土曜日開講やその他の形態にも対応する。 ・必要に応じて講義も行うが、生体情報計測学に関するテーマについて調査研究を実施し、その結果をレポートとしてまとめ、報告を行う演習形式を主体とする。 		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生体情報, 生体機能, 生体計測, センサ技術, システム工学, 合目的性, 生体制御システム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は総合リハビリテーション分野の運動行動障害領域における専門科目に区分される。 ・受講者は「生体情報計測学の理解と修得」を目標とする。 ・具体的には、生体諸情報の各種計測手段や方法について調査研究するとともに、新しい生体計測技術の開発を目指し、そのために必要な基礎知識を養うことを受講者の目標とする。 		
授業の内容	<p>感覚系, 運動系などの各種生体機能をシステム工学的なアプローチにより解析し, 生体制御システムや生体が有する合目的性について理解するとともに, 生体計測法やセンサ技術の基礎原理と応用例について調査・研究に基づく演習を行う。</p>		
成績評価の方法	授業参加 (出席状況と授業への取り組み態度) とレポート内容による総合評価を行う。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (教科書) は特に指定しない。 ・必要に応じて資料を配布する。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の他, 授業の進行に応じて適宜紹介する。 ・山越憲一, 戸川達男『生体用センサと計測装置』コロナ社, 2000年 		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉分野で汎用される各種計測機器を有効に利用するための基礎知識を習得する上で, 生体情報計測学演習は重要な科目です。 ・予習・復習も非常に大切ですが, 授業中に疑問を生じた場合はそのままにせず, なるべくその場で解決するようにしてください。 ・また演習形式の授業は通常の受け身の講義とは異なり, 能動的に手足と頭脳を働かせ, 積極的に授業に参加する態度が必要となります。 		

授業科目名	人体動態解析学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日 12時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 講義と演習形式で実施します。講義の受講にあたり, 事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。学生は, 授業に出席し, 課題を作成・提出することが義務付けられます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動学, 動作解析, バイオメカニクス, 動作シミュレーション(筋力推定), 三次元動作解析, 表面筋電図分析, 重心動揺分析, 足底圧分析, 眼球運動分析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	運動障害の原因を運動学的手段を用いて分析・解析する能力を取得することが目標であり, 臨床的な問題解決能力の向上につながるようリハビリテーション医学に関連する文献への批判的検証も学習する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体動態解析に関わる基本手法の学習 2. 病的な動態の原因検証や治療法選択を反証できるものとして科学的に思考する技術を学習 3. 各自の研究テーマにあった解析手法を絞り込み, 関係する文献を批判的に吟味する方法を学習 		
成績評価の方法	出席60%, 課題レポート(文献レビュー)40%の割合で評価する。レポートの課題は講義の中で提示する。各レポートの提出期限は, 最終講義から1週間以内とする。		
テキスト	教科書 『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	参考図書は「動作観察・分析学特論」に準ずる。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	専門支持科目である「動作観察・分析学特論」を受講していること*。なお, 実験は指定教室ではなく人体動体研究室(4416)で行うので注意すること。 *運動・動作分析に関する学習および研究経験のない者は事前に担当教員と相談すること。		

授業科目名	人体動態解析学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	金井 秀作		
研究室の場所	三原キャンパス 4421研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	授業日程に従って, 講義と演習形式(実験含)で実施します。講義の受講にあたり, 事前配布資料や参考図書および文献を読んでおくことが授業の理解を深める上で有効です。学生は, 授業に出席し, 課題へのレポート提出およびプレゼンテーションが義務付けられます。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動学, 臨床運動学, 運動学的研究法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	運動障害の原因を運動学的手段を用いて分析・解析する能力を取得することが目標であり, 臨床的な問題解決能力の向上につながるようリハビリテーション医学に関連する文献への批判的検証も学習する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学的分析研究(国内)について学習 2. 運動学的分析研究(海外)について学習 3. 修士論文に関わる参考文献(和文)の概要説明 4. 修士論文に関わる参考文献(英文)の概要説明 5. 運動学的分析・解析データの処理-1 6. パイロットスタディ(予備実験)の立案 7. パイロットスタディの実施 8. パイロットスタディの検証 		
成績評価の方法	出席25%, 課題レポート(実験レポート)25%, 筆記試験50%の割合で評価する。レポート課題は講義の中で提示する。レポートの提出期限は, 最終講義から2週間以内とする。		
テキスト	『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	修士論文のテーマに合わせた演習内容とするため, 自身の研究が「人体動態解析学」領域であること。演習・実験ともに人体動態研究室(4416)を使用する。		

授業科目名	発達科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み, 場所は4429研究室. これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	小児の感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解し, 臨床的観点で考えることができるようになることを基本的な目標とする。そのうえで, 小児の感覚・知覚・認知・運動発達の診かたやその分析方法が討議できることを目標とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	胎児, 新生児, 乳幼児, 感覚・認知・運動, 発達・学習, 臨床運動学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	当科目は, 胎児期から高齢期にかけて, そのヘルスプロモーションを科学するための基礎とする。		
授業の内容	胎児期から高齢期にかけての感覚・認知・運動の発達と学習を理解するために, 運動学(バイオメカニクス), 解剖学, 生理学, 心理学, 工学等の事前学習とその習得を前提に授業を展開する。また, 認知・運動発達に関する文献検索を行い, 課題を設定し, その課題に対して実験的・文献的検証を行う。		
成績評価の方法	課題レポートなどを総合的に判断して評価する。		
テキスト	適宜関連文献を配布する。		
参考文献	参考書の紹介も適宜行なう。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必要に応じて, 運動学(バイオメカニクス), 解剖学, 生理学, 心理学, 工学等の事前学習が必要であるため, 別途課題を提示する。		

授業科目名	身体活動支援学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 2501研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日12時～13時. 場所は2501研究室(長谷川)。これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	対面授業. 授業日程に従って, 講義と討議形式で実施する。関連文献の輪読と討議の形式で実施します。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	機能・形態障害, 能力障害, 靴, 義肢装具, 人間工学, 福祉工学, 環境		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では胎児期から高齢期にかけての機能・形態障害および能力障害に対する支援方法を『環境側面』から検討する。また, 文献研究を通して環境側面の評価手法, 開発手法について学習します。		
授業の内容	講義では様々な福祉機器, 義肢装具, 環境介入方法の有効性について外国論文を熟読し理解を深めます。さらに院生各自が症例検討や簡易な実験を通じて, 環境側面から捉えた身体活動の支援方法について討論します。		
成績評価の方法	討議への参加状況50%, 課題レポートの内容50%で評価する。		
テキスト	講義ごとに関連文献を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講希望者は事前に担当教員に連絡すること。		

授業科目名	ヘルスプロモーション科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司, 長谷川 正哉		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室(島谷), 三原キャンパス 2501教室(長谷川)		
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み, 場所は4429研究室, 2501教室. これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	胎児期から高齢期にかけての感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解し, 臨床的観点で考えることができるようになることを基本的な目標とする。そのうえで, 胎児期から高齢期にかけての感覚・知覚・認知・運動発達の診かたやその分析方法が討議できることを目標とする。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	臨床運動学, 運動制御, 運動学習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	当科目は, 胎児期から高齢期にかけて, そのヘルスプロモーション科学の一端を習得することを目的とする。		
授業の内容	胎児期から高齢期にかけての感覚・認知・運動の発達と学習を理解するために, 臨床運動学(バイオメカニクス), 解剖学, 生理学, 心理学, 工学等の事前学習とその習得を前提に授業を展開する。また, ヘルスプロモーション科学に関する文献検索を行い, 課題を設定し, その課題に対して実験的・文献的検証を行う。		
成績評価の方法	課題レポートなどを総合的に判断して評価する。		
テキスト	適宜関連文献を配布する。		
参考文献	参考書の紹介も適宜行なう。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必要に応じて, 運動学(バイオメカニクス), 解剖学, 生理学, 心理学, 工学等の事前学習が必要であるため, 別途課題を提示する。		

授業科目名	身体・老年期障害作業療法学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日 5時限目		
授業の形式・方式	講義および課題発表・討議。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	認知症, 地域ケア, 訪問作業療法, 認知症予防, 身体障害, 作業遂行		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	身体障害者や高齢者に対する作業療法の役割は広範囲に及ぶ。最近では生活行為や作業に焦点を当てた実益的な実践を行い、障害者や高齢者が住み慣れた地域の良い環境でいきいきと暮らすための支援が求められている。そこで本授業では、身体障害者、高齢者を対象に作業を基盤とした作業療法の実践や研究について知識を深めることを目標とする。この科目は、総合リハビリテーション分野作業遂行障害学領域の授業科目の1つとして位置づけられている。		
授業の内容	身体障害者、健康および認知症高齢者を対象に作業を基盤にした作業療法の実践や研究を行っている文献の紹介や抄読を行い、よりよい作業療法の実践について討議する。また、作業療法に関する研究論文を読みこなすために必要な基礎的な研究法や統計に関する知識を教授する。		
成績評価の方法	課題発表、演習態度および出席を総合して評価する。		
テキスト	教科書は特に指定しない。参考文献はその都度提示および紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	身体・老年期障害作業療法学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西田 征治		
研究室の場所	三原キャンパス 3420研究室		
オフィスアワー	水曜日 5時限目		
授業の形式・方式	課題発表・討議。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	身体障害, 認知症, 作業療法, 作業を基盤とした実践		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	身体障害や高齢者に対する作業療法の役割は広範囲に及ぶ。特に、最近では介護予防やヘルスプロモーションにおける作業療法士の貢献が求められている。しかし、この領域に関してはまだ歴史も浅く、学部教育ではあまりなされていないのが現状である。今後、指導的な立場として地域のニーズに応えるために必要な技能について学ぶことを目標とする。一方では、医療や福祉における作業療法の課題も生じている。その一つがクライアントにふさわしい意味のある作業に焦点を当てた作業療法の実践が未だ不十分な現状にあることである。これを解決するための方策について多面的に討論することを2つ目の目標とする。この科目は、総合リハビリテーション分野作業遂行障害学領域の授業科目の1つとして位置づけられている。		
授業の内容	身体障害および老年期障害における作業療法の文献を読み、批判的に吟味する。履修学生の研究テーマに関連する文献および関心のある文献の抄読と討議を行う。		
成績評価の方法	課題発表, 討議および出席を総合して評価する。		
テキスト	教科書は特に指定しない。参考文献はその都度提示および紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、身体障害者および高齢者の作業療法および関連領域で関心のある国内外の文献を整理しておいて下さい。		

授業科目名	作業科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ, 古山 千佳子		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室 (吉川) , 3405研究室(古山)		
オフィスアワー	火曜日 5時限		
授業の形式・方式	対面授業。作業科学に関連する文献を基に, 批判的吟味とディスカッションを行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	該当せず		
キーワード	作業科学, 作業的公正, 作業バランス, 人と環境と作業の相互作用, 作業権		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	作業科学の概要を理解する。作業的存在として自己を振り返る。作業科学分野の研究論文を批判的に読む。今後の作業科学研究課題を特定する。		
授業の内容	作業科学の概要について講義する。最新の作業科学文献を読みながら, 受講生が興味をもつ研究テーマについて, さらに文献検索, 批判的吟味を行う。特定の研究論文についてディスカッションする。		
成績評価の方法	出席・参加50%, 課題30%, 振り返り20%		
テキスト	吉川ひろみ:「作業」って何だろう 作業科学入門, 医歯薬出版関連雑誌「Journal of Occupational Science」, 「Occupational Therapy Journal of Research」, 各国作業療法学術雑誌 Townsend著, 吉川ひろみ他訳:続・作業療法の視点, 大学教育出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	欠席の場合は事前にメール等で教員に連絡すること。		

授業科目名	作業科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	吉川 ひろみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3404研究室		
オフィスアワー	月曜日4時限		
授業の形式・方式	対面授業。受講生が関心をもつ作業科学分野の研究テーマを扱う。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	該当せず		
キーワード	作業科学, 研究法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	作業科学領域から関心ある研究テーマを選択する。研究疑問に適した研究方法を特定する。		
授業の内容	受講生が関心をもつ研究テーマについて、疑問の生成、文献検索、批判的吟味、研究方法論の検討を行う。		
成績評価の方法	出席・参加50%, 課題50%の割合で成績評価する。		
テキスト	特定しない		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	欠席の場合は事前に教員に連絡すること。		

授業科目名	精神・脳機能障害作業療法学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝		
研究室の場所	三原キャンパス 2503研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日17時から18時。これ以外は要予約。		
授業の形式・方式	講義及び演習。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合リハビリテーション分野作業遂行障害学領域1年次		
免許等指定科目			
キーワード	精神・脳機能障害児・者, 精神・脳機能障害, 作業療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「総合リハビリテーション分野」の「作業遂行障害学領域」の専門科目に位置する。授業の目標: 1. 「作業遂行障害学特別研究」の研究テーマに関連する和文の文献を過去3年分読み, 最近の研究の動向と知見を説明できる。2. 文献抄読により得られた知識が臨床または「作業遂行障害学特別研究」にどのように適用できるかを文章化できる。		
授業の内容	「作業遂行障害学特別研究」の研究テーマ関連文献(和文)を過去3年分読み, 最近の研究動向や知見を得る。そして, 文献抄読により得られた知識が臨床または「作業遂行障害学特別研究」にどのように適用できるかを整理統合し, 文章化する。		
成績評価の方法	授業への参加貢献度20%、課題80%の割合で評価される。		
テキスト	テキストは特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業時に紹介される。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	変化している現代の医療・保健福祉の中で, 従来の学問や実践枠に囚われず自由な発想で対象者に対する作業療法と研究テーマを考えることを希望します。		

授業科目名	精神・脳機能障害作業療法学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	田端 幸枝		
研究室の場所	三原キャンパス 2503研究室		
オフィスアワー	毎週水曜日18時から19時。これ以外は要予約。		
授業の形式・方式	演習及び実習		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合リハビリテーション分野作業遂行障害学領域1年次		
免許等指定科目			
キーワード	精神・脳機能障害児・者, 精神・脳機能障害, 作業療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	カリキュラム上の位置付け: 「総合リハビリテーション分野」の「作業遂行障害学領域」の専門科目に位置する。授業の目標: 1. 「作業遂行障害学特別研究」の研究テーマに関連する過去2年間の文献を読み, 最近の研究動向と知見を説明できる。2. 「作業遂行障害学特別研究」の研究テーマを決定できる。3. 2の研究計画を立案し, 予備調査又は予備実験を行うことができる。		
授業の内容	「作業遂行障害学特別研究」の研究テーマに関連する過去2年間の文献を読み, 最近の研究動向と知見を得る。そして, テーマを決定し, 研究計画を立案後, 予備調査又は予備実験を経験する。		
成績評価の方法	授業への参加態度及び貢献度30%, 課題70%の割合で評価される。		
テキスト	テキストは特に使用しない。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「作業遂行障害学特別研究」が円滑に進むよう熟慮し, 本授業に臨んでください。		

授業科目名	脳機能発達障害作業療法学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	土田 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 2512研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義および演習、発表		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	感覚統合理論および発達障害に関する基礎的知識を有することが望ましい。		
免許等指定科目	特になし		
キーワード	作業療法、感覚統合、発達障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	脳機能の理解に基づく人間行動の特性分析の方法を理解する。		
授業の内容	①感覚統合：AYRES理論の再考 ②行為機能の障害 ③感覚調整 ④介入の編成 ⑤学校における感覚統合理論の使用 ⑥代替、補完的プログラム⑦感覚統合研究の進歩		
成績評価の方法	課題発表60%、レポート40%		
テキスト	土田玲子、小西紀一監訳、感覚統合とその実践、協同医書出版、ISBN4-7639-2114-2 C3047		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	脳機能発達障害作業療法学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	土田 玲子		
研究室の場所	三原キャンパス 2512研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義、課題発表		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	論文指導を受ける学生を対象とする。		
免許等指定科目	特になし		
キーワード	発達障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	各々の研究テーマに沿った主要文献を理解する。		
授業の内容	個々の研究内容によって随時提示する。①精神と脳の関係②情動と動機づけ③身体感覚のダイナミズム④あらたなるシステム論にむけて		
成績評価の方法	出席30%、発表40%、レポート30%		
テキスト	マーク・ソームズ、オリバー・ターン(平尾和之訳)：脳と心的世界、星和書店、ISBN 978-4-7911-0636-3 茂木健一郎：心を生み出す脳のシステム、NHKブックス、ISBN 4-14-001931-X C1311		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	個々の研究テーマに沿って、学習内容を組み立てていきます。		

授業科目名	作業遂行認知・心理機能障害学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小池 好久		
研究室の場所	三原キャンパス 2506研究室		
オフィスアワー	月曜日 5限目		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	認知症, BPSD, 非薬物療法,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	認知症患者への対応で困難を要するのは、中核症状よりもむしろBPSD(認知症の行動と心理症状)である。しかし、このBPSDは可逆的であり、そのBPSDの治療の第一選択肢は非薬物療法である。特論においては、非薬物療法を実践するための理論を中心に講義する。		
授業の内容	認知症の中で特にアルツハイマー病に焦点を当て、認知症の進行状況に応じ、どのように脳の認知機能や心理機能の障害が変化して行くのかを理解する。また非薬物療法を行うに当たり、残存機能をどのように活用して治療に結びつけるのかを理解する。		
成績評価の方法	出席および提出レポートにより評価		
テキスト	テキストは使用しない。授業毎に資料配布。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	作業遂行認知・心理機能障害学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小池 好久		
研究室の場所	三原キャンパス 2506研究室		
オフィスアワー	月曜日 5限目		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	認知症, BPSD, 非薬物療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	認知症患者への対応で困難を要するのは、中核症状よりもむしろBPSD(認知症の行動と心理症状)である。しかし、このBPSDは可逆的であり、そのBPSDの治療の第一選択肢は非薬物療法である。演習においては、様々な非薬物療法の特性とアルツハイマー病の残存機能とを照らし合わせて、その有効性や、対象者とのマッチングについて理解を深めてゆく。		
授業の内容	演習においては、特論で学んだアルツハイマー病の障害特性や残存機能の理論を、現状で用いられている、あるいは開発過程にある様々な非薬物療法の特性と照らし合わせてその有効性や、対象者とのマッチングについて理解を深めてゆく。		
成績評価の方法	出席率, 提出レポート内容, 発表を総じて評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料は授業時に適宜配布。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	小児・発達期障害病態学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	林 優子		
研究室の場所	三原キャンパス 2502研究室		
オフィスアワー	特に定めない(事前に予約してください)		
授業の形式・方式	対面講義 受講者の専門性と職歴を考慮した上で、小児の発達や病態生理に関連した文献をもとに、最新の知見や支援体制について討議し理解を深める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	小児 発達障害 医療・療育 リハビリテーション 発達支援 家族支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	小児期・発達期のリハビリテーションの対象となる疾患や障害について、原因、診断、病態、治療、予後などを包括的に学習するとともに、課題や支援のあり方を、文献を通して深く考察する。		
授業の内容	脳のしくみと発達 小児期・発達期の障害の概念(定義・分類・病態像) 医学的診断(診断のプロセス・諸検査) 医学的治療(予防・治療・リハビリテーション) 子育て支援(家族支援・地域資源との連携) 予後に関する研究的知見 今後の課題		
成績評価の方法	出席状況・講義の中でのディスカッションによる理解度とレポートにより総合的に評価する。		
テキスト	テキストなし 講義で関連資料を配付する。		
参考文献	はじめて働くあなたへ 日本知的障害者福祉協会 <+9784902117271+> 知っておきたい知的障害者の医療と保健衛生 日本知的障害者福祉協会<+9784902117226+>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	事前に資料を配付する 予習をして参加すること		

授業科目名	小児・発達期障害病態学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	林 優子		
研究室の場所	三原キャンパス 2502研究室		
オフィスアワー	特に定めない(事前に予約してください)		
授業の形式・方式	事例検討(附属診療センター利用者のカンファレンスや分析、文献による事例検討など)、発達外来診察への参加、療育施設や発達相談の見学実習、専門機関の講師を招いてのディスカッションなど希望に応じて選択する		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象前期の小児・発達期障害病態学特論を履修していること		
免許等指定科目			
キーワード	生育歴 発達歴 発達障害 発達評価 心身症 精神症状 不適応行動 発達支援 家族支援 移行支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	小児期・発達期のリハビリテーションの対象となる疾患や障害(脳性麻痺、知的障害、自閉症、ADHD、学習障害、染色体異常症、筋ジストロフィーなど)について、事例検討会や実際の支援の場の見学を通して具体的に評価や分析を行い、支援のあり方を検討していく。		
授業の内容	附属診療センター利用者や文献の事例について、カンファレンスや文献から詳細に情報を収集する。実践するための評価や支援などを多様な視点から学ぶ。		
成績評価の方法	出席とレポートによる課題達成度で評価する。		
テキスト	特になし 自分で資料を検索する		
参考文献	「育てにくさ」に寄り添う支援マニュアル 診断と治療社 障害児の親のメンタルヘルス支援マニュアル 日本発達障害福祉連盟		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	事例検討は匿名とし、守秘義務を遵守する。		

授業科目名	精神障害病態学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4427研究室		
オフィスアワー	講義時に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。講義または討議の形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	精神疾患, 発症要因, 病態生理, 診断, 治療, 生物学的研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 発症頻度が高い精神疾患の発症要因, 病態生理について探求し, 加えて 診断や治療における最新知見を得ることを目標とする。		
授業の内容	精神障害者の治療や援助に際し科学的視点をもつために, 精神疾患の発症要因, 病態生理, 診断, 治療に関する科学的最新知見について講義や討議を行う。		
成績評価の方法	出席状況, レポート及びプレゼンテーションにて評価する。		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	精神障害病態学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4427研究室		
オフィスアワー	講義時に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。講義または討議の形式で実施する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	精神疾患, 発症要因, 病態生理, 症状, 診察, 診断, 治療, 生物学的研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	症例や文献から詳細な情報を収集し, 臨床における実践的側面から討議する能力を身につけることや精神科診察の基礎知識を習得することを目的とする。		
授業の内容	精神症状学や主訴・現病歴・既往歴・家族歴・生活史・生活習慣・性格等聴取時の注意点および面接時観察事項を学びながら, 精神科診察の概要を学ぶ。 発症頻度が高い精神疾患の発症要因, 病態生理, 診断, 治療における最新文献内容が, 診断・治療・支援等において実践可能であるか否かについて検討する		
成績評価の方法	出席状況, レポート及びプレゼンテーションにて評価する。		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	認知・コミュニケーション脳機能学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	伊集院 睦雄		
研究室の場所	三原キャンパス 4430研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面講義 (セミナー形式)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション脳機能とその研究に興味をもっていること		
免許等指定科目	なし		
キーワード	コミュニケーション、脳機能、言語機能、音声、聴覚、文字、意味、感情、感性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	認知・コミュニケーション脳機能学特論ではコミュニケーション脳機能を文献的に理解することに主眼をおくものの、機能を評価・解析するための方法を具体化する実習も一部含める。コミュニケーション脳機能の実験的解析は認知・コミュニケーション脳機能学演習で行う。		
授業の内容	言語機能(特に「読み」に関する機能)の基礎、障害を心理学的、神経科学的、計算論的アプローチによって理解する方法を講義する。三領域からの学際的な取り組みによる研究事例をとりあげ、「読み」というこころの機能を理解する様々なアプローチを紹介し、認知・コミュニケーション脳機能学の分野における研究の現状と将来の方向について解説する。		
成績評価の方法	課題発表とレポートで評価する。		
テキスト	適宜資料を配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	認知・コミュニケーション脳機能学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	伊集院 睦雄		
研究室の場所	三原キャンパス 4430研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面演習		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	コミュニケーション脳機能とその研究に興味をもっていること		
免許等指定科目	なし		
キーワード	コミュニケーション、脳機能、言語機能、文字、意味、音声、聴覚		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	認知・コミュニケーション脳機能学演習では、コミュニケーション機能を評価・解析するための方法を具体化し、実験的解析を行い、討議する。認知・コミュニケーション脳機能学特論ではコミュニケーション脳機能を文献的に理解することに主眼をおく。		
授業の内容	認知・コミュニケーション脳機能の基礎的理解に基づき、言語的、非言語的情報の脳内表現とその獲得・崩壊・再獲得のメカニズムに関する認知科学的手法による最新の研究論文を検討する。検討結果に基づいて、認知・コミュニケーション脳機能学分野において必要でかつ重要な研究テーマを考えその実行可能性について討議し、模擬的な研究計画を作成する。作成された研究計画に基づいて、データ集積、仮説検定、論文作成・論文投稿、口頭発表と討議、他者の論文の査読、査読に対する論文修正の演習を行う。		
成績評価の方法	課題発表とレポートで評価する。		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	認知・言語機能障害学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	渡辺 眞澄		
研究室の場所	三原キャンパス 3507研究室		
オフィスアワー	担当教員と要予約		
授業の形式・方式	授業日程に沿って、対面授業を行う。受講学生との調整によって集中講義とする場合もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	高次脳機能障害, 失語症, 評価, リハビリテーション, コミュニケーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	認知・言語機能障害についての専門的な内容を学び、学生の興味を深めることを目標とする。評価やリハビリテーションについての基礎的知識を土台として、認知・言語機能障害の臨床に関する最新の知見や問題点を明らかにし、実践への応用を考える。		
授業の内容	講義や文献研究を通して、脳損傷に伴う認知・言語・コミュニケーション障害について、その症状やリハビリテーション、最新の知見に関する理解を深める。		
成績評価の方法	課題レポート、課題発表、出席態度の合計によって、評価する。		
テキスト	テキスト： 講義時に資料を配付する。		
参考文献	参考文献： 鹿島晴雄他編「よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション」永井書店, 2008; 笹沼澄子編「言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論」医学書院, 2005; 重野純著「言語とこころ」新曜社, 2010; 辰巳格著「ことばのエイジング」大修館書店, 2012; 熊倉勇美他編「やさしく学べる言語聴覚障害入門」永井書店; 鹿島晴雄他編「よくわかる失語症と高次脳機能障害」永井書店, 2003.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	認知・言語機能障害の領域で、自分が関心ある問題(取り組むべき課題)を見出すこと。		

授業科目名	認知・言語機能障害学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	渡辺 眞澄		
研究室の場所	三原キャンパス 3507研究室		
オフィスアワー	担当教員と要予約		
授業の形式・方式	授業日程に沿って、対面授業を行う。受講生全員との調整を行うことによって集中講義とする場合もある。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	脳損傷, 高次脳機能障害, 失語症, 評価, リハビリテーション, コミュニケーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	認知・言語機能障害についての専門的な内容を学ぶ。評価やリハビリテーションについての基礎的知識を土台として、最新の評価方法や効果的なリハビリテーション手法に関する体系的な知識を身につけ、修論執筆に繋げる。		
授業の内容	国内外の研究動向の把握, また最新の評価やリハビリテーションに関する演習を通して、現有の専門知識を、今後の認知・言語機能障害の評価ならびにリハビリテーションに活かす工夫を探る。		
成績評価の方法	課題レポート, 課題発表, 出席態度の合計点によって、評価する。		
テキスト	テキスト: 講義時に配付する。		
参考文献	参考文献: 随時紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語・認知機能障害領域で、関心があるテーマを見出し、それに関する国内外の文献を整理することが必要である。		

授業科目名	コミュニケーション発達障害学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	玉井 ふみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3504研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面授業を、講義および演習形式で行う。学生は、授業に出席し、発表およびレポートを作成・提出する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	コミュニケーション障害、発達、評価、支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	子どもの言語・コミュニケーションの発達、コミュニケーション障害の支援に関する文献抄読や事例検討により実践的、応用的な問題について理解を深めることを目標とする。		
授業の内容	言語・コミュニケーションの発達および小児のコミュニケーション障害に関する基礎研究、臨床研究、また発達心理学や認知神経心理学など近接領域に関するトピックスを取り上げ、文献および臨床事例を通して、科学的な評価法、効果的な指導法、子どもや家族の立場に立った支援のあり方について検討する。		
成績評価の方法	授業への参加状況、課題発表、レポートにより評価する。		
テキスト	文献抄読に使用する文献、参考文献は講義時に紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学生自身の問題意識や関心のあるテーマと関連付けながら、積極的に取り組んでほしい。		

授業科目名	コミュニケーション発達障害学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	玉井 ふみ		
研究室の場所	三原キャンパス 3504研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面授業、主に演習形式で行う。学生は、授業に出席し、発表およびレポートを作成・提出する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	コミュニケーション障害、発達、評価、指導・支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学生が関心を持った研究テーマについて文献研究、事例検討を通して理解を深め、最新の知見や研究の方法論について学ぶことを目標とする。		
授業の内容	子どもの言語・コミュニケーションの発達とその障害、臨床に関する研究テーマについて文献を読み、研究計画を作成し、分析方法について吟味する過程を通してコミュニケーション障害のある子どもの支援のあり方について考察する。		
成績評価の方法	授業への参加状況、課題発表、レポートにより評価する。		
テキスト	テキストは特に指定しない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	関心を持ったテーマや事例について理解を深め、実践的に取り組んでほしい。		

授業科目名	認知科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	認知心理学, モデル, 推計統計学, 比較認知, 学習心理学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	心理学を応用するには, その基礎となる法則・原理の理解が必須である. 本講義を通して認知科学の基本的な概念と原理を習得し, 直接観測不可能な事象である心的過程へのアプローチ方法を獲得し, 心理学を科学として応用可能になることを目的とする.		
授業の内容	認知科学は, 人間の心的過程を情報処理のシステムとして科学的にモデル化し, 理解・予測・制御する科学である. 本講義では現在の基礎心理学の中心である認知科学の方法論や実験研究事例について講義を行う. また必要に応じて比較認知や行動主義のアプローチも紹介する.		
成績評価の方法	レポート50%, 授業への積極的な参加50%.		
テキスト			
参考文献	1) 森ら, グラフィック認知心理学, サイエンス社.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業への積極的な参加を求める. また, 参考書で自己学習することも必要である.		

授業科目名	認知科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4418研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業. 演習形式		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	認知心理学, モデル, 推計統計学, 比較認知		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	心理学を応用するには, その基礎となる法則・原理の理解が必須である. 本講義を通して認知科学の研究の方法論を習得し, 直接観測不可能な事象である心的過程への認知的科学的なアプローチ方法を実践できることを目的とする.		
授業の内容	本講義では現在の基礎心理学の中心である認知科学の方法論や実験研究事例について, 各履修者が一つのテーマを決めて演習を行う. 最後に演習の内容をレビュー論文の形式でレポートにまとめる.		
成績評価の方法	レポート40%, 演習の内容60%.		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	演習に用いる論文は基本的に最新の英語論文に限定する. また, 論文の講読に関しては, 引用された主要な関連論文の内容を含めて理解することが必須である.		

授業科目名	音声科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	吐師 道子		
研究室の場所	三原キャンパス 3513研究室		
オフィスアワー	アポイントメント形式		
授業の形式・方式	セミナー形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	音声生成、音声知覚		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>音声言語の障害の理解には健常音声生成と知覚の理解が不可欠である。本特論では健常音声生成と知覚に関する実験心理学、工学等近接領域の最新の研究に触れ、音声生成モデル、知覚モデルに対する理解を確立し、健常音声生成及び知覚研究の言語障害の本質解明、診断、治療、支援機器開発への応用の現状及び将来性について検討する。</p>		
授業の内容	<p>さまざまな音声生成モデル、知覚モデルの概要、これを支える実験研究に触れ、コミュニケーション障害の診断、治療、支援機器開発へのこれらのモデルの役割について考察する。</p>		
成績評価の方法	発表とレポートによる		
テキスト	適時資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	音声科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	吐師 道子		
研究室の場所	三原キャンパス 3513研究室		
オフィスアワー	アポイントメント方式		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	音声生成、音声知覚		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	音声生成と知覚に関する理論／モデルの言語聴覚障害研究への応用及びその成果の理論／モデル構築への貢献を目指した実践的な研究を行う。		
授業の内容	研究テーマを考え実験デザインを決定し、データ収集、分析、結果解釈を含め論文執筆及び発表の過程を実行する。		
成績評価の方法	発表とレポートによる		
テキスト	適時配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	音声機能障害学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	城本 修		
研究室の場所	三原キャンパス 2509研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面講義（セミナー形式）		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	音声生成，音声障害，音声治療，声の検査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	音声生成の数式モデルの観点から音声障害についての再検討する。また，音声障害の評価法についても，一部，実習を交えて学習する。		
授業の内容	従来の音声障害に関する治療法や評価法についてまとめ，その問題点と課題を検討する。さらに，隣接する実験心理学や工学，医学等の最新研究に基づき，音声障害の病態モデルを構築し，モデルに基づいた評価法や治療法を再検討する。		
成績評価の方法	課題発表と課題レポート，および講義中の討論参加を総合して評価する。		
テキスト	「音声生成の科学—発声とその障害」医歯薬出版，新美成二監訳		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	討論には積極的に参加し，建設的な議論を行なうことを歓迎する。発声機能や喉頭科学に関する一般的な知識が前提となるので，履修にあたって担当教員と相談すること。		

授業科目名	音声機能障害学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	城本 修		
研究室の場所	三原キャンパス 2509研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面演習		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	音声生成モデル, 発声機能, 音声障害, 音声治療,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	音声障害の病態モデルを基礎にして, その具体的な評価法と治療法を実験的に検証する. 特論では, 理論的なモデルの構築に主眼を置いたが, 演習ではモデルの実験的検証に 主眼を置く.		
授業の内容	音声障害の病態モデルを基礎とした評価法や治療法に関する模擬的な研究計画を作成し, 実行可能性やデータの集積法, 仮説検定法などについて討論する. さらに, 模擬論文 作成を通して, 論文査読や査読に対する修正を演習する.		
成績評価の方法	研究計画書と模擬論文による評価		
テキスト	資料は適宜配布する.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	音声機能障害学特論の履修が前提である.		

授業科目名	音声言語医学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	土師 知行		
研究室の場所	三原キャンパス 4425研究室		
オフィスアワー	可能な限り対応 アポイント必要		
授業の形式・方式	対面講義・英文論文抄読を基に音声言語医学の最新の知見や課題について討論，レポート作成。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	喉頭科学，音声・言語障害，嚥下障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	耳鼻咽喉科学一般を概説した上で，喉頭およびその他の構音器官の解剖，生理および音声言語，嚥下障害が生じるメカニズムを学修する。障害の評価，検査法および治療法を学んだ上で，文献から音声言語医学の最新の知見や課題を知り，それについて討論する。		
授業の内容	まず耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の概論を対面講義する。その上で喉頭およびその他の構音器官の解剖，生理および音声言語，嚥下障害が生じるメカニズム，障害の評価，検査法など対面講義。英文論文を抄読し，内容について討論する。		
成績評価の方法	課題発表とレポートによる。		
テキスト	適時配布する。		
参考文献	なし		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	音声言語医学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	土師 知行		
研究室の場所	三原キャンパス 4425研究室		
オフィスアワー	可能な限り対応（アポイント必要）		
授業の形式・方式	セミナー形式		
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	喉頭科学, 音声障害, 嚥下障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>文献の抄読から音声障害や嚥下障害に関する研究テーマを選び、臨床研究の計画を立て、データの収集、解析、結果の考察を行い論文の作成を行う。 この演習を通じて音声言語医学研究にふさわしい創造的実践力、論理的な思考、データの解析能力、論文作成能力を身につけることを目標とする。</p>		
授業の内容	<p>文献の抄読および音声障害や嚥下障害に関する臨床研究のデザイン、データの収集、解析、結果に対する考察を行い、成果を発表し論文を作成する。授業は出来るだけ双方向で行い、自発性を重視するが、その過程で適切な指導や助言を行う。</p>		
成績評価の方法	研究計画、研究過程、研究成果の発表、論文を評価対象とする。		
テキスト	資料は適時配布する		
参考文献	なし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	音声言語医学特論を履修していることが望ましい。		

授業科目名	運動性発話障害特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣		
研究室の場所	三原キャンパス 4432研究室		
オフィスアワー	特に指定しない。できるだけメール、来室などにより事前予約してください。		
授業の形式・方式	授業日程に沿って、対面授業を行います。 受講生の発表、ディスカッションを主体として進めます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動性発話障害 (motor speech disorders), dysarthria (運動障害性構音障害), apraxia of speech (発話失行), 評価, 支援, 運動学習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本特論は、これから運動性発話障害の研究に取り組もうとする学生、または運動性発話障害の症状、評価・支援方法に興味のある学生を対象として、本領域における今日までの基礎的・臨床的研究の潮流を理解すること、現在の研究の到達点と今後の課題を把握することを目標とします。		
授業の内容	原著論文、システマティック・レビュー、臨床ガイドライン論文、専門書などの文献抄読を通して、dysarthria、発話失行の発現機序、発話症状、評価・支援方法に関する理解を深めるとともに、これまでの研究の流れを概観し、今後の研究の方向性について考察していきたいと思えます。		
成績評価の方法	発表、レポート、ディスカッションへの参加努力を総合して評価します。		
テキスト	特に指定なし。		
参考文献	適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者自身の問題意識や研究テーマを尊重して、文献の選択、抄読の支援をするので、積極的な取り組みを期待します。		

授業科目名	運動性発話障害演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小澤 由嗣		
研究室の場所	三原キャンパス 4432研究室		
オフィスアワー	特に指定しない。随時、メール、来室などにより予約してください。		
授業の形式・方式	対面授業。学生の希望に応じて集中講義とする場合もあります。受講生の発表、ディスカッションを主体として進めます。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動性発話障害 (motor speech disorders), dysarthria (運動障害性構音障害), apraxia of speech (発話失行), コミュニケーション障害, 評価, マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	原則として、「運動性発話障害特論」を履修した学生を対象とします。運動性発話障害の領域に関する現在および今後の研究課題について理解を深めることを目標とします。また、模擬研究計画の立案を通して、研究の進め方、方法論を実践的に学習していきたいと思えます。		
授業の内容	受講者が関心をもつテーマについて、各自文献を渉猟し、これまでに報告された研究の内容と問題点について体系的にまとめて発表してもらい、ディスカッションを行います。また今後取り組むべき課題について、模擬的な研究計画案の作成を行ってもらう予定です。		
成績評価の方法	発表、レポート、ディスカッションへの参加努力を総合して評価します。		
テキスト	特に指定なし		
参考文献	適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	本演習で取り扱う文献をきっかけとして、解剖生理学的な理解を深めたり、臨床的な情報資源に積極的にアクセスするなど、受講者各自が主体的な学習を展開することを期待します。		

授業科目名	摂食嚥下障害学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	矢守 麻奈		
研究室の場所	三原キャンパス 3423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	授業日程に沿って対面授業を行う。受講生全員との調整で集中講義とする場合もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	摂食嚥下障害, 評価, リハビリテーション, 認知機能, 職種間連携, 栄養		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	摂食嚥下障害およびそのリハビリテーションについて基礎的～専門的にわたる内容を学び、多様な背景を持つ学生の知識の均質化と興味喚起を図る。摂食嚥下機能・障害・リハビリテーションについて最新の知見や問題点を明らかにし、臨床・研究への応用を考える。		
授業の内容	講義・文献購読を通して、様々な原因疾患・病期における摂食嚥下障害について、その病態やリハビリテーション、最新の知見に関する理解を深める。		
成績評価の方法	授業参加状況, 課題発表, レポートで評価する。		
テキスト	配布資料, 都度紹介		
参考文献	雑誌Dysphagia, 嚥下医学, 摂食嚥下リハビリテーション 等		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	摂食嚥下障害とそのリハビリテーションに関して自らの臨床経験を振り返り、社会的状況も視野に入れて、問題意識を喚起する。		

授業科目名	摂食嚥下障害学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	矢守 麻奈		
研究室の場所	三原キャンパス 3423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	授業日程に沿って対面演習を行う。受講生全員との調整で一部集中演習とする場合もある。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	摂食嚥下障害, 評価, リハビリテーション, 認知機能, 年齢, 性差, 栄養		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	摂食嚥下障害およびそのリハビリテーションについて専門的内容を学ぶ。摂食嚥下機能・障害・リハビリテーションについての知識を体系化し, 最新の知見や問題点を明らかにし, 修士論文執筆に発展させる。		
授業の内容	文献購読を通して, 様々な原因疾患・病期における摂食嚥下障害について理解を深め, 病態の解明や効果的なリハビリテーション手法の工夫につなげる。		
成績評価の方法	授業参加状況, 課題発表, レポートで評価する。		
テキスト	都度紹介		
参考文献	雑誌Dysphagia, 嚥下医学, 摂食嚥下リハビリテーション 等		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの領域において, 自らの問題意識や関心のあるテーマに関連した国内外の文献を整理し, 研究の焦点を定める。 本科目の履修は, 摂食嚥下障害学特論の履修を前提とする。		

授業科目名	脳機能解析学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志		
研究室の場所	三原キャンパス 4428研究室		
オフィスアワー	特に定めないが、メール等で事前に訪室希望の連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、テキストの各章に関して、院生による講読形式で実施する。 1回の講義につき1・2章の講読を想定する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	無し		
キーワード	ニューロン, グリア細胞, シナプス, 神経伝達物質, ホルモン, ホメオスタシス, 大脳皮質, 大脳基底核, 視床下部, 小脳, 脳幹, 脊髄, 運動, 階層性, 学習と記憶, 情動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	脳機能を理解するためには、脳神経系の基本的な構造を理解することが求められる。したがって、本科目では脳機能を理解するために中枢神経系の構成要素であるニューロンおよびグリア細胞の構造と機能から考察する。その上で、神経ネットワークがその機能を発現するメカニズムを概説する。 本科目はコミュニケーション障害・脳科学領域の専門科目で、脳の機能障害を学ぶうえで、基礎となる科目である。		
授業の内容	中枢神経系である脳の機能は、神経ネットワークによって情報の伝達処理が行われ、適切に出力され発揮される。 この生体の情報は、ホルモン・神経伝達物質・細胞増殖因子などの伝達手段で脳に伝えられ、そこで情報処理され出力される。この情報の伝達および処理が、どのようなメカニズムで行われるかについても最新の脳科学研究成果を論文等からも紹介する。		
成績評価の方法	試験は実施しない。 院生が参考図書又は文献(英文を含む)を講読してレポートを作成し、その内容をパワーポイントを用いてプレゼンテーションする。 これらで総合的に評価する。		
テキスト	Principles of Neural Science (Kandel et al, McGraw-Hill)		
参考文献	ブレインブック みえる脳(養老孟司監訳, 南江堂)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、神経解剖学および生理学の教科書を参照し、本講を受講することが望ましい。また図書館のビデオ等のマルチメディアを十分に活用して、理解を深めて欲しい。		

授業科目名	脳機能解析学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	森 大志		
研究室の場所	三原キャンパス 4428研究室		
オフィスアワー	特に定めないが、メール等で事前に訪室希望の連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、基礎的実験機器の取り扱いを簡単な計測を体験しながら学ぶ。 生体の発する電気信号をいずれも微弱であり、これを可視化するための方法等についても学ぶ。また必要に応じて論文抄読を行うが、これは受講生が他者に説明するプレゼンテーション形式で実施する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	無し		
キーワード	ニューロン, シナプス, 大脳皮質, 大脳基底核, 視床, 小脳, 脳幹, 脊髄, 姿勢と歩行, 学習と記憶, fMRI, PET, SPECT, リハビリ, 機能回復		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	脳機能を理解するためには、これを実験的に解明する手法や技術を獲得する必要がある。 本科目では、机上での討論だけではなく、実際に生体信号を記録する様々な方法を学び、その信号の意味から脳機能を理解する手掛かりを得るためのプロセスについて学ぶ。本科目はコミュニケーション障害・脳科学領域の専門科目で、脳機能を解析する手法についての重要な問題について、外国論文に関する論議、問題解決およびレポート作成あるいは実験を通じて、論理的な神経科学的思考についても学ぶ。		
授業の内容	中枢神経系である脳の機能は、神経ネットワークによって情報の伝達処理が行われ、適切に出力され発揮される。この過程で、活動電位の発生、すなわち興奮の発生が観察される。これが情報伝達の一步と言える。 本演習では、これらの情報の伝達および処理がどのようなメカニズムで行われているかを解析するための様々な研究手法を学ぶ。すなわち形態学的観察法、臨床生理学的な生体情報のサンプリング方法、そして電気生理学的な実験方法について実験を中心とした演習を通して、神経科学的な思考方法について学ぶ。		
成績評価の方法	試験は実施しない。 院生は積極的に演習に参加し、可視化された生体信号に感動してほしい。 実験はやりっぱなしではなく、簡単な実験であっても、その内容についてプレゼンテーションする。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	脳機能画像学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	大西 英雄		
研究室の場所	三原キャンパス 3413研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面あるいは集中方式で講義を行う。講義自体のスタイルはゼミ形式をとり入れ、一方的な授業でなく、あるテーマを決めて活発な討論形式で授業を行う。画像のフィルムリーディングなども積極的に取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	脳血流, 高次脳機能画像, MR画像, CT画像, PET画像, SPECT画像, 画像再構成, 統計学的脳解析, 医療画像情報処理, DICOM通信, 画像再構成処理, 脳血流定量解析, 機能診断		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	各種モダリティから発生する画像データを一元化するためのネットワーク処理の手法を学ぶ。その画像を元に臨床症状からの脳機能を画像化する手法としてのCT-perfusion, MRI-perfusion, PET&SPECT-perfusion画像の原理, 手法及びその特徴などを各モダリティ別に理解し, 臨床診断及び臨床所見や臨床症状との整合性などを理解する。また, この科目は脳機能だけに特化した科目であるが, 医療画像全般の知識として, 同分野の医療画像情報学特論を履修するのが望ましい。さらに, 専門支持科目のがん治療学特論や終末期医療特論などを履修することで, 放射線診療や画像等についての総合的な理解が得られる。		
授業の内容	生体画像をネットワークに取り込み方から始まり, その生体機能画像の情報を一元化し, より多くの情報を取り出す手法を構築する。各種モダリティ別(CT, MRI, SPECT, PET)の特徴を講義し, それぞれの画像再構成の原理や有用性についても論じる。特に核医学画像(SPECT・PET)については, 生体機能情報や生体内の定量的血流測定の原理, 特徴および用途などについて学ぶ。また, CT画像やMRI画像と核医学局所脳血流との評価についても学習し, 併せて診断の対象となる疾病の解剖学的知識と画像作成に用いられる各種モダリティの画像特性についても学ぶ。		
成績評価の方法	授業中での発言内容, 積極性や, 討論参加度など, 2~3回程度の課題レポートなどを考慮して総合的に評価を行う。		
テキスト	特に指定しない: 参考までに, Friendrich T.Sommer etc:Exploratory Analysis and Data Modeling in Functional Neuroimaging(Neural Information Processing series), Mit Printing, 2002		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ゼミ形式により積極的なディスカッションを希望する。		

授業科目名	脳機能画像学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	大西 英雄		
研究室の場所	三原キャンパス 3413研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	学生または教員が選んだ国内外の脳機能画像学や各種機能画像に関する文献を精読し、ディスカッションを主体とした授業を行う。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	脳血流, 高次脳機能画像, MR I 画像, CT画像, PET画像, SPECT画像, 画像再構成, 統計学的脳機能解析, 医療画像情報処理, DICOM通信, 脳血流定量解析, 機能診断		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	脳機能画像学や各種機能画像に関する文献を精読して脳機能画像学特論で学んだ事柄についての理解を深める。コミュニケーション障害・脳科学特別研究のテーマの選択や研究方法の検討に役立てる。		
授業の内容	SPECTおよびPET検査における脳血流定量法、画像再構成法および脳血流画像統計解析法(SPM)などの原理および特徴をコンピュータシミュレーション等を通じて学ぶ。また、CT脳血流定量法及び拡散MRI定量法など文献購読や資料を通して解析法を取得し、各モダリティ(CT、MRI及びSPECT)から算出した局所脳血流の相違と各疾患との対応を行い、文献購読により機能評価について数理科学的手法の適応を主眼においた学習を行う。		
成績評価の方法	文献に書かれていることについての理解とディスカッションへの参加状況で評価する。		
テキスト	国内外の脳機能の関連する本、雑誌などの文献をコピーして使用する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	興味がある文献をあらかじめ調査しておくことを薦めます。		

授業科目名	脳神経機能障害学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 俊英		
研究室の場所	三原キャンパス 3524研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 16時から17時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	討論形式。あらかじめ与えられた課題について討論する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	神経症候学, 脳機能局在, 自律神経機能, 神経生理学的検査		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 脳機能の局在と神経症候学についての基本的内容を理解することを促し, 機能障害をさまざまな角度から検討するものである。本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられる。		
授業の内容	脳機能局在について症候学を基盤とする評価法を学ぶ。様々な原因による脳, 神経の機能障害にみられる多様性について学び, それに対応する評価, 検査, 診断を基盤とする治療学についても学ぶ。		
成績評価の方法	出席、討論内容、レポートによる。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	神経解剖学, 神経生理学の基礎的知識が必要である。		

授業科目名	脳神経機能障害学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 俊英		
研究室の場所	三原キャンパス 3524研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日 18時から19時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	実践形式。症例をもとに課題を探り検討する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	神経症候学, 自律神経機能検査, 神経生理学的検査, 神経治療学, 心身医学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 脳機能の局在と神経症候学について基本的内容を理解することを促し, 実際の演習により修得を確実のものとするものである。本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられる。		
授業の内容	脳機能局在について神経症候学を基盤とする評価法や面談法について実践的な演習により学ぶ。また自律神経機能検査, 神経生理学的検査などの診断に欠かせない検査法や治療学, 心身医学的配慮についても臨床の場で実践的に学ぶ。		
成績評価の方法	出席, レポートによる。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	脳神経機能障害学, 脳神経機能病態学を履修していることが望ましい。臨床の場での演習には鋭い観察力と行動力, 倫理観と人間愛に基づく真摯な態度が求められる。		

授業科目名	学習認知心理学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	対面（場合によっては遠隔）授業。主に、事前配布する学習資料に基づいて講義形式で実施する。双方向の質疑応答を主体に、場合によっては、課題として、関連文献を熟読し発表することを義務づけることもある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ストレス, 精神的健康, 認知行動療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業のねらいは、ストレスや精神的健康に関わる現象を学習心理学や認知心理学の視点からそのメカニズムを解析して、そのケアの方法として認知行動療法を解説するものである。		
授業の内容	人間の態度・行動ならびに認知に関わる学習的側面を広く生物学的・生態学的視点を取り入れながら、その原理とメカニズムを解説する。その後、ストレスと精神的健康に話題を絞り、学習・認知的側面からそのメカニズムを考察する。最後に、ストレス対処法としての認知行動療法の原理と実践技法を詳しく解説する。		
成績評価の方法	2 / 3 以上の出席がなければ単位は認定されない。評価は、授業への積極的参加 (20%) とレポート等の課題遂行度 (80%) から総合的に判断する。		
テキスト	テキストは使用しない。参考文献は授業中に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	学習認知心理学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	中谷 隆		
研究室の場所	三原キャンパス 4528研究室		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	対面授業である。学習と認知のメカニズムやフィールド研究や心理的援助の効果検証法に関する特定の話題を取りあげて、それに関する内外の文献を熟読・吟味し、質疑応答と自由討議を主体に、その内容を深く理解させる。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	記憶, 思考, 感情, 条件づけ, 人格, 社会的認知, 対人態度, ストレス, 精神的健康, evidence-based psychotherapy		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業のねらいは、不適応行動や人格や対人関係に関わる諸現象の分析ならびに認知行動療法の実際や効果性測定の方法に習熟してもらうことにある。		
授業の内容	学習と認知のメカニズム, さらには認知行動療法やフィールドワーク(質的研究)に関する基本的学術論文を, テーマに沿って熟読吟味する。		
成績評価の方法	2/3以上の出席がなければ単位は認定されない。評価は, 文献内容の理解度(70%)と授業中の発言(意見)内容(30%)に基づいて総合的に判断する。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は授業中に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	ソーシャルワーク特論（個人）		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光		
研究室の場所	三原キャンパス 4526研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義については、主に講義形式を取るが、後半は演習形式で幾つかの事例について治療計画を立てる		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ソーシャルワーク、クライアント中心療法、精神分析論、行動療法、オペラント条件づけ、実験デザイン		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ここでは、ソーシャルワークの方法論のなかで、具体的な問題行動を解決する行動療法を中心に講義を進める。そのなかで、この治療方法がクライアント中心療法や精神分析理論よりも優れている長所や逆に短所などについて述べる。そして、何故、行動療法がソーシャルワークのなかで重視されるようになったかを理解することを目標とする。		
授業の内容	ソーシャルワークの実践に利用されてきたクライアント中心療法、精神分析理論など全般的について述べ、その後、行動療法を中心に講義を進めて行く。行動療法については、オペラント条件づけを中心に、技法、実践手続き、事例を検討する。また、治療方法の効果を調べる実験デザインについても講義をする。		
成績評価の方法	出席とレポート課題で評価する		
テキスト	教科書：三原博光著「行動変容アプローチによる障害者の実践事例」学苑社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	行動療法は、ソーシャルワークの実践上、重要な援助方法の1つである。特に臨床場面に興味のある学生に履修を勧めたい。		

授業科目名	ソーシャルワーク演習（個人）		
担当教員氏名(助手氏名)	三原 博光		
研究室の場所	三原キャンパス 4526研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	4単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ソーシャルワーク、行動変容アプローチ、障害者、家族、エコロジー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	修士論文作成に向けて文献探索、分析力などを養成する。		
授業の内容	まず、ソーシャルワークの特徴を説明する。そして、ソーシャルワークにおける行動変容アプローチの導入の必要性、背景について触れる。また、行動変容アプローチの技法について紹介し、効果的測定方法など考える。そして更に、この方法を用いた修士論文の作成についての指導を行う。その際、クライアントの社会生活環境を理解するためのエコロジーアプローチについても言及をする。		
成績評価の方法	出席、プレゼンテーション50%		
テキスト	教科書：三原博光著「行動変容アプローチによる障害者の実践事例」学苑社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	行動療法は、ソーシャルワークの実践上、重要な援助方法の1つである。特に臨床場面に興味のある学生に履修を勧めたい。		

授業科目名	ソーシャルワーク特論（家族）		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス 4529研究室		
オフィスアワー	メール等で事前にご連絡ください		
授業の形式・方式	対面形式、遠隔		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ファミリーソーシャルワーク、支援論、変容技法、効果測定法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	最新の家族援助のソーシャルワークモデルの基礎理論と、技術論や効果測定法を教授し、次世代の家族ソーシャルワークの理論的、技術的な方向性について議論する。		
授業の内容	現代の家族支援法についての研究を深化、発展させるために、最新の家族ソーシャルワークモデルの基礎理論と、技術的理論や効果測定法を教授する。とりわけ、社会構成主義的援助モデルの基礎理論、評定法及び技法群について考察を深める。また、伝統的な家族ソーシャルワークモデルの長所と限界を考察しつつ、次世代の家族ソーシャルワークの理論、技法論の方向性を模索する。		
成績評価の方法	筆記試験70%、プレゼンテーション30%		
テキスト	『ファミリーソーシャルワークの理論と技法』九州大学出版会、2014、『Reconstructing Meaningful Life Worlds』iUniverse, 2011		
参考文献	『支援論の現在』世界思想社、2008、『サポート・ネットワークの臨床論』2010		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英語文献が読めること。		

授業科目名	ソーシャルワーク演習（家族）		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス 4529研究室		
オフィスアワー	メール等で事前にご連絡ください		
授業の形式・方式	対面形式。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ソーシャルワーク理論の構築、支援論、ネットワーク療法、支援技法、効果測定法、		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	修士論文のための論理力、臨床研究を進める上での技術的力を修得する。		
授業の内容	一連のソーシャルワーク実践論研究を取り上げ、それらを批判的に吟味するという論理的な手法の学習を徹底させる。その上で、新たな基礎理論及び、技術的理論の構築を行う作業を指導し、それらを発表する方法も教授する。他方で、事例に関与させつつ、援助活動の技術的理論とその哲学的基礎についての再考察の機会を与え、理論研究と連動させる。特に福祉現場での実習を通して、評定及び介入技法、効果測定法、チームワークについての学習を深める指導を行う。		
成績評価の方法	プレゼンテーション100%		
テキスト	ファミリーソーシャルワークの理論と技法（2014）、Reconstructing Meaningful Life Worlds（2011）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	適応行動学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室		
オフィスアワー	講義日随時 場所は教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業. 遠隔講義対応. 適宜, 資料配布による講義および発表討論を行う.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	認知行動理論, 認知行動病理学, 認知行動療法, ポジティブ心理学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標に設定する。 (1) ストレスの心身に対する影響を, 認知行動理論をもとに理解する。 (2) メンタルヘルスに関する生活課題の心理学的援助の方法論を理解する。 (3) 心理社会的援助の効果研究について理解する。 【カリキュラム上の位置づけ】 専攻における専門科目である。 .</p>		
授業の内容	<p>認知行動療法は, 様々な適応困難な場面において, セルフケアの効力を高める援助技術として知られている.すでに, 介入・援助技術として国際的なスタンダード技術として位置づけられており, 心理・福祉職のみならず, 様々な専門職に活用されている.講義では, その概要を教授するとともに, 実践の活用事例を通して, 効果の実際を討論する. .</p>		
成績評価の方法	プレゼンテーション資料(30%), レポート作成(30%), 授業への参加態度(20%), 討論への参加態度(20%)		
テキスト	テキストは使用しない.		
参考文献	参考文献は適宜示す.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	積極的な学習態度を望む.		

授業科目名	適応行動学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	細羽 竜也		
研究室の場所	三原キャンパス 4527研究室		
オフィスアワー	講義日随時 場所は教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業. 論文輪読や発表, 研究計画にもとづく調査・実践研究に取り組む.		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	量的研究, 混合デザイン, 質問紙調査, 実践研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 以下のことを授業の目標に設定する。 (1) ストレス研究について国内外の論文を抄読し, 発表する。 (2) 自らの関心にもとづき, 研究計画を立て実践する。 (3) 適切な発表スキルを習得する。 【カリキュラム上の位置づけ】 専攻における専門科目である。</p>		
授業の内容	<p>国内外のストレス現象を, 主として心理社会的要因にもとづいて理解するための, 情報収集・情報生産の方法論について学ぶ。近年, 心理社会的要因が人々のwell beingに及ぼす影響を調査研究にもとづき把握し, 対策につなげる潮流が強まっている。特に, 対人場面を含めた環境要因の影響を検討することは, 人と環境との調和を図る取り組みに欠かせない知見を生み出すことがある。この演習では, 人が適応に悩む状況を取り上げ, 影響要因を同定し, 問題解決の方法を導くための研究方法を学ぶ。</p>		
成績評価の方法	プレゼンテーション資料(30%), レポート作成(30%), 演習への参加態度(20%), 討論への参加態度(20%)		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は適宜示す		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	積極的な学習態度を望む。		

授業科目名	介護福祉学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士		
研究室の場所	三原キャンパス 2505研究室		
オフィスアワー	面談は要予約で、場所は担当研究室あるいはサテライト広島キャンパスの社会福祉実習室及びサテライトキャンパスひろしまとする。		
授業の形式・方式	対面講義を主体として、授業日程に従い、講義形式も併用し、演習実習形式も考慮する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	特記なし		
キーワード	介護福祉学、社会福祉学、介護保険制度、介護福祉、介護モデル、介護過程、介護サービス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	介護福祉学と社会福祉学を中心に、高齢者や障害者等を取り巻く課題に対して、個人の心身、家族、地域社会さらに国際社会における諸レベルの相互依存性を考慮に入れた介護福祉学に基づく高齢者支援論について教授を行う。持続可能な介護保険制度にするために、少子高齢社会から人口減少長寿社会に向けた国際的な取り組みを教授する。		
授業の内容	介護福祉学と社会福祉学を中心に、高齢者や障害者等を取り巻く課題に対して、個人の心身、家族、地域社会さらに国際社会における諸レベルの相互依存性を考慮に入れた介護福祉学に基づく支援論について教授を行う。介護福祉学の探求を図るために、介護福祉学に関する理論的学問ならびに実践的専門性を包括しながら、その課題の発見・認識・解決・評価へ、教育と調査研究の過程を専門的に展開し、介護の実践により福祉を実現する介護福祉学体系を学ぶ。持続可能な介護保険制度にするために、少子高齢社会から人口減少長寿社会に向けた国際的な取り組みを教授する。		
成績評価の方法	出席、レポート、口頭試問、筆記試験、実習演習形式等で評価する。		
テキスト	『介護保険における介護サービスの標準化と専門性』大学教育出版、2007年。		
参考文献	"Achievement and Future Directions of the Long-Term Care Insurance in Japan" University Education Press, 2014. 随時に資料等を配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	介護福祉学特論には、介護福祉特論とソーシャルワーク特論の履修が望ましい。		

授業科目名	介護福祉学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	住居 広士		
研究室の場所	三原キャンパス 2505研究室		
オフィスアワー	場所は担当研究室あるいは大学院室から広島サテライトキャンパスの社会福祉実習室とサテライトキャンパスひろしまにて、面談は要予約とする。		
授業の形式・方式	対面演習として、授業日程に従い、演習形式を主体とし、講義実習形式も考慮する。		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	特記なし		
キーワード	介護福祉学, 社会福祉学, 介護保険制度、介護福祉、介護モデル、介護過程、介護サービス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	介護福祉学と社会福祉学の研究課題を構築するために必要な保健・医療・福祉的専門知識, ならびに介護保険制度と社会福祉制度等をめぐる政策的理論と実践を教授する。持続可能な介護保険制度と社会福祉制度に向けて、少子高齢社会から人口減少長寿社会に向けた長寿活力社会のための老年生活機能学を国際的に探求する。		
授業の内容	介護福祉学と社会福祉学の研究課題を構築するために必要な保健・医療・福祉的専門知識, ならびに介護保険制度と社会福祉制度等をめぐる政策的知識の教授を行う。介護福祉学と社会福祉学に関連する実践現場に関与しつつ、理論的かつ実践的知識と技術の探求を図る専門的演習を行う。介護福祉学と社会福祉学の理論と実践の課題の提起を行いながら、介護福祉学と社会福祉学の研究計画・展開過程・研究評価を演習しながら、その認識を深めて、保健・医療・福祉等の諸科学を包括しながら展開する専門教育と研究過程を演習する。持続可能な介護保険制度に向けて、少子高齢社会から人口減少長寿社会に向けた老年生活機能学による長寿活力社会の取り組みを国際的に探求する。		
成績評価の方法	出席, レポート, 口頭試問, 筆記試験, 実習演習形式等で評価する。		
テキスト	『介護保険における介護サービスの標準化と専門性』大学教育出版, 2007		
参考文献	参考書: 『医療介護とは何か』金原出版, 2004年。"Achievements and Future Directions of the Long-Term Care Insurance System in Japan: Toward Social "Kaigo" Security in the Global Longevity Society" University Education Express, 2014. 随時、プリントやPPTなどを配付する。参考文献は随時、提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	介護福祉学演習は、介護福祉特論とソーシャルワーク特論の履修が望ましい。		

授業科目名	社会保障論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子		
研究室の場所	三原キャンパス 3503研究室		
オフィスアワー	水曜日2, 3限		
授業の形式・方式	ゼミナール方式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	貧困 失業 年金 医療		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	わが国の社会保障諸制度（年金保険・医療保険・失業対策・公的扶助など）の理解を深める		
授業の内容	国民生活の実態社会保障諸制度の概要と特徴		
成績評価の方法	レポート・討論参加など総合的に判断		
テキスト	開講後に各自の要望を聞き選定		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	社会保障論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	都留 民子		
研究室の場所	三原キャンパス 3503研究室		
オフィスアワー	水曜日2, 3限		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	貧困 失業 年金保険 医療保険 雇用保険 公的扶助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国民生活における現代的貧困の特質をつかみ、社会保障諸制度の現状と課題を把握する		
授業の内容	各自以下をレポートし報告・討論をする ・国民生活に関する文献資料 ・社会保障の諸制度の内容と現状に関する文献資料 資料の選定については各自の要望を尊重する		
成績評価の方法	レポート・討論内容で判断する		
テキスト	開講後各自の要望から選定		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ケアマネジメント特論		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面式授業及びグループ討議		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	ケアマネジメント、地域生活支援、地域移行、要介護高齢者、精神障害者		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ケアマネジメントの概念、そのプロセスを理解し説明できるようになる。		
授業の内容	ケアマネジメントをソーシャルワークの立場から批判的に検討する。検討に当たっては、マクロレベル、メゾレベル、ミクロレベルの各々から行い、課題を整理する。		
成績評価の方法	レポートの作成と発表の状況50%、最終レポート50%で成績を評価する。		
テキスト	ステファン・M. ローズ編『ケースマネジメントと社会福祉』ミネルヴァ書房、1997		
参考文献	岡田進一『ケアマネジメント原論』(株)ワールドプランニング、2011		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特になし		

授業科目名	ケアマネジメント演習		
担当教員氏名(助手氏名)	金子 努		
研究室の場所	三原キャンパス 4423研究室		
オフィスアワー	要予約		
授業の形式・方式	対面式授業および演習		
単位数(時間数)	4単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	1年次対象		
免許等指定科目	なし		
キーワード	ケアマネジメント・プログラム、中間ケア、プログラム評価		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	修士論文作成に必要となる理論的・技術的力量の養成をめざし、修士論文を作成できるようになることを目標とする。本科目は、修士論文作成に向けたその基盤となる科目。		
授業の内容	ケアマネジメント・プログラムをマクロ・レベル、メゾ・レベル、ミクロ・レベルのそれぞれのレベルでとらえる視点と複眼的にとらえる視点を、文献学習と議論を通して身につけていく。		
成績評価の方法	文献の読解力・プレゼンテーション力、30%、議論への参加状況30%、最終レポート40%で評価する。		
テキスト	梅野潤子『研究って何だろう』高学出版、2013年		
参考文献	安部陽子訳『看護研究のための文献レビュー』医学書院 山崎茂明、六本木淑恵『看護研究のための文献検索ガイド』日本看護協会出版会		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			